

# UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFOと宇宙哲学の専門誌

コンタクティー

〈連載第2回〉

## 私は別な惑星へ行ってきた!

テレパシーで飛来した真っ黒い円盤  
八丈富士山麓でUFOを撮影  
地球を救う愛の想念放射運動  
母船の周囲には人工大気層がある

AUTUMN  
1986

94



## UFO contactee 94号目次

〈巻頭言〉 地平を超えて	1
<b>テレパシーで飛来した真っ黒い円盤</b>	2
八丈富士山麓でUFOを撮影	7
〈写真〉 清水港上空のUFO	8
〈写真〉 イスタンブール上空の白い物体／松本市のUFO群	9
地球を救う愛の想念放射運動	10
母船の周囲には人工大気層がある	12
GAP短信	19
<b>私は別な惑星へ行ってきた! 〈連載第2回〉</b>	20
〈予告〉 61年度日本GAP総会	31
〈投稿欄〉 ユーコン広場	32
〈広告〉 アダムスキー全集／英文版ユーコン	34
〈支部大会報告〉 新潟／静岡／長野	35
GAP幸せカプルの集い	36
〈予告〉 61年度地方支部大会〈その3〉	37
〈広告〉 61年度「ギリシヤ・トルコ・ローマ宇宙考古学の旅」	38
全国月例研究会案内	40



◀ 金星からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

### GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

■表紙写真は1981年8月3日、アメリカの惑星探査機ボイジャー2号が150万kmの距離から撮影した土星とその輪の一部分(朝日新聞社提供)。

ソ連のチェルノブイリ原発の事故は世界を震撼させたが、実際はもつと大惨事になるところを、スペース・ピール（偉大な文明を持つ別な惑星から来た人々）の円盤群が事故現場の上空に結集して被害を最少限にいとめたらしい。これは一例にすぎないが、地球世界は常にスペース・ピールから何らかの援助救済を受けているにもかかわらず、ごく少数の人以外はだれも気付かないという。このことはアダムスキーも力説しているし、本誌に連載中の「私は別な惑星へ行ってきた！」

＜巻頭言＞

## 地平を超えて



の春川正一氏も多くの実例をあげて説明していた。UFOの存在自体を信じない人が多いのだから気付かぬのは無理もないだろうが、それにしても「知っている人」と知らない人との間に隔絶がありすぎるようだ。

裏の世界で起こっている驚異的な出来事を大衆が全く知らないのは、大政府の隠蔽策にもよるが、他の原因にマスコミの報道姿勢がある。ニューズウィーク誌日本語版六月十九日号に、「なぜ誤報が多いのか。問われる報道姿勢」と題して、報道機関による先の

原発事故の誤報ぶりを指摘している。それによると当初UPI通信は死者二千名と報じたけれども、この誤りを一カ月間訂正しなかったという。被害者ははるかに少なかったのだ。

これは同記事の小見出しにあるように、「政府発表をうのみにして実態調査を怠った」からである。一流の通信社がこの有様だから、正確な情報源を持たぬ一般読者が記事内容をすべて真実と思い込むのは当然だ。こうして、「真実が靴をはいている間にウソは世界を半周する」。これはウインストン・チャーチルが好んで口にしていた言葉だという。

アダムスキー問題、というよりもUFO問題に関して、戦後四十年間においてとあらゆるニュース、記事、噂、デマが流れた。現在も間断なくUFO関係の情報が去来している。この情報過多のために真実と虚偽の判断に困惑し、関心を失って去って行く人が多い。

しかし確実に言えることは、何かは真実であり、何かは創作であるということだ。これを判断するにはこの世界の科学知識だけに頼つてもまずだめで、特殊な情報源をつかむか、自分のテレパシクな感知力による以外、方法はないだろう。

本誌前号に掲載した「私は別な惑星へ行ってきた！」は爆発的センセーションをまき起こし、驚異と賛嘆に満ちた手紙が編者のもとに殺到した。今の

ところ疑惑や反論は皆無である。これは、アダムスキー全集の膨大な知識情報を基礎としているGAP会員には、他のコンタクト事件に対する真偽の判断力が充分に身につけていることと、ある種の直感力が作用するからと考えられるのである。

ここで重要になるのは、アダムスキーが伝えた深遠雄大な宇宙的インフォメーションと哲学である。これはUFO研究家の判断の基準になるもので、これを抜きにしてコンタクト事件の真偽を見抜くのは困難だろう。アダムスキーは重要なポイントのすべてを彼の著書「宇宙からの訪問者」の中で述べていると、春川氏も編者に語っていた。たとえば地軸の傾きに関する記述はその一例である。

したがって我々はものすごいコンタクト事件の発生を身近に知れば知るほど、A氏の著書を重視せざるを得ない。すでに古典となりかけたその著書類は今なお地球人類に重大な示唆と指針を与えているのだ。しかも人間はだれでもA氏や春川氏のごときコンタクトティになれるような可能性と偉大な力を内蔵しているとA氏は教示しているのである。

春川氏はアダムスキーを偉大な人物であると確言し、「彼が体験記を出していたからこそ自分も体験を話すことができた」と言っている。

しかし春川氏も偉大である。死物狂

いの荒行をやって超能力を開発し、円盤・母船に十数度も搭乗した上、水星金星、さらに別な太陽系の惑星にまで行きながら、いささかも誇ることはなく、謙虚そのものの態度で地球や地球人の未来を明るく見つめている。万物を見るにプラス想念のみを起し、マイナス想念はカケラも起さない。超能力も抜群で、他人の撮影したUFO写真が本物かどうかは、手をかざすだけで写真から出る波動により感知できるといふ。また他人が書いた手紙を読まなくても、それを手に取るだけで、その波動により書いた人の精神の状態、対人的トラブルなどを見抜くのである。その正確さに驚嘆のほかない。

我々は低次元な論争を望むものではない。この太陽系中の偉大な発達をとげた他の惑星群の人々との交流を望み、地球の真の平和の確立に多少とも寄与しようとする努力しているのである。UFO存在の真否、アダムスキー問題の真偽を論じる段階はとつくの昔に通り返り、今や重大な事実と直面しているのだ。真実を望む人だけでよい。「結束して前進しよう」と呼びかけたい。

スペース・ピールは真剣に深求し実践する人ばかりかそうでない人も、本人は気づかなくても、援助するのである。これに倣って我々も信じない人にも援助の手を差し延べよう。万人を創造主の顕現と見て尊敬し、プラス想念をもつてあたたかく接しよう。(久)

# テレパシーで飛来した真っ黒い円盤 少年の願いは思いがけぬかたちで実現した!

堀江 健 一

私がGAPに入会したのは高校一年、十五歳のときでした。十年ほど前で、以来、いろいろありましたが、會員の皆さんや久保田先生、そしてアダムスキーの書物により、自分としては出来すぎといえるほどの良い運命をたどってきたと思います。また多少とも進歩してきました、心から感謝しております。

## 自然を愛した少年

子供の頃、私はとても自然が大好きな少年でした。当時私は横浜の住宅街に住んでいました(横浜市保土ヶ谷区川島町六八三)。それで近くに田んぼがないものですから、かなり離れた田



▲筆者・堀江健一氏

んぼまで行って、泥だらけになって遊んだものでした。動物や昆虫も大好きで、私の勉強机の上にはいつも水槽があつて、その中にはいつも何か生き物が飼われていました。テレビ番組も野生の王国とか海の世界などの実写ものばかり見ていました。

本もよく読んだのですが、これも好んで自然科学的なものばかりで、特に子供の頃の愛読書は百科辞典でして、暇になるとすぐに百科辞典を棚から取り出して、何度も飽きずに繰り返し読んでいたのです。ちょうど今頃アダムスキー全集をときどき繰り返し読むのと同じようにです。

今思いますと、百科辞典には自然の法則や驚異的なことが書かれてあるもので、それで飽きもせず毎日のように読んでいたのだと思います。

中学生の頃からは人間の説いた思想的な面に興味を持つたのですが、特に老子には共鳴するものがありました。キリスト教には全く関心はありませんでしたが、イエスの言葉そのものには興味がありました。

## 世界共通語を考える

それ以前から私は物事を考える上で一つの基準を持つていました。それは「これは自然なのか、自然ではないのか」ということです。今でも判断に困ったときには、よくこれを応用します。

また子供の頃から日本という言葉が大嫌いで、自分が日本人だと思ったことは一度もなく、自分は地球人であつて、日本人ではないのだと思つていました。そして小学生になったとき、世界が分裂しているのは言葉の違いによるのだということがわかってきました。今でもよく覚えていゝるんですが、小学校の校庭の鉄棒によりかかりながら、世界が一つの言葉を使うようになるにどうしたらよいかということに考へていました。それが「自然」だと思つたものですから、真剣に考へたのです。またお金の問題も極端なところがありまして、両親が、お金をやるから手伝いをしてくれと言つても、私は逆にお金をもらわないのなら手伝う

と言つたものです。お金をもらつて手伝うのなら、意味がないと思つたからです。

動物の育て方でもそうでした。犬を飼つていたことがあるのですが、その犬に何か芸当をやらせたり呼んだりするときに、私は絶対にエサでつるようなことはしませんでした。エサで動物に言うことを聞かせるのは、人間のやることではないと思つたからです。

## UFOは別な惑星から来る

また私は自然のいろいろな現象に強い関心を持つていたので、当然のようにテレパシーとかUFOといった問題にも関心を持つようになったのです。この関心が特に強くなったのは中学生のときです。小学生の頃から、UFOを見たことはなかったのですが、その存在を信じていて、どこか遠い別な太陽系から来るものだと思つていました。

ところが、アポロ計画を調べていくと、月の様子がどうもおかしいことに気がついたので、はつきりとはわかりませんが、月には一般に発表されていることとは違つた何かがあるようで、このことを知つたときには非常にショックを受けました。このことから、UFOは遠い太陽系から来ているのではなく、この太陽系の別な惑星から来ているのではないかという結論が、自分

なりの判断から出てきたのです。すぐ隣に偉大な進歩をとげた人類がいるのかと思つて、強いショックを受けました。

### 変貌した東京月例会

当然のように、このことをずっと主張し続けてきたアダムスキー氏のことにも非常な興味を持ち、彼が何を言っているのか知りたいと思ひ、GAPに入れば氏のことをもっとよくわかるだろうと思つて、入会しようとしたのですが、その頃ははまだ中学生でして、高校生以上でないと入会できないということだったので、高校生になるまで待ったのです（注Ⅱ現在では中学生でも入会できる）。

その間、書店にアダムスキー氏の書を注文して手に入れたりしました。その頃の小遣いからすると、ずいぶん高い本だったので、お金ができる問題だと思つたのですが、これは大きな問題だと思つたので、お金がいまひとつつ注文しながら読んでいきました。高校時代には東京月例会に何度か参加させて頂きました。大学に入つてからは、金銭的な余裕も出てきましたし、大学の講義も土曜日にあるものは、なるべく選択しないようにして、時間的余裕も出てきましたので、ほぼ毎月月例会に参加するようになりました。

しかし、その頃は自分とGAPとに

ちよつと異なるものがあると感じていました。たしかに、その頃の自分と、その頃のGAPとは、ちよつと違つていたと思ひます（注Ⅱたしかにそのとおりで、当時の東京月例会は本物になつていなかつた。しかし現在では見違えるように向上している）。そのために月例会には参加しても、自己紹介の間まではおらず、先生の講義を有難く拝聴してから、すぐ帰つてしまふという状態が、かなり長く続きました。でもそういうような異質なものを感じていても、アダムスキー問題の重要さや、この地球の人々が他の惑星のように、平和で調和した世界を築く方向に進んでほしいという気持は皆さんと同じですから、その気持で毎月のように東京月例会に足を運んでいました。自分とGAPとが本当に同じになつてきたなと思ひ始めたのは、ここ四年ぐらい前からです。

### イメージを浮かべる練習

話は昔にもどりますが、私がアダムスキーに深い関心を持ち出した十五歳の頃、テレパシー能力を身につけたいとか、スペース・ブラザーズ（注Ⅱ偉大な進歩をとげた別な惑星の人々）に会いたいと強く思ったことがあります。そして、いろいろ調べてゆくと、心の中にイメージを浮かべる能力が非常に重要であつて、これが強くできる人が

スペース・ブラザーズにコンタクトされたり、テレパシー能力を身につけるのではないかという結論に達しました。そこでイメージを描く練習を徹底的に実践することにしたのです。

まず、いろいろな図形のイメージを浮かべる練習をしました。しかしこれはいくらやっても、うまくいきません。そこでもつと簡単なものから始めることにしました。

まず、丸と三角と四角から始めました。ところが、いざ練習をすると、こんな簡単な図形でさえ、満足にイメージを浮かべることは出来ないことがわかつたのです。丸も三角も四角も、イメージがだんだん浮かんできたかと思つると、正確な図形になる前に、すぐ崩れてしまうのです。こんな具合でしたので、私には最初から図形のイメージを浮かべるといふことは、とんでもない話であることがよくわかりました。

そこで、この簡単な図形をうまく浮かべられるようになるまで、徹底的に練習をすることにしました。

これを練習しているうちに、満足できるまで、なんとかうまくイメージを描くことができるようになりました。次にだんだんと簡単な物のイメージから、しだいに少し複雑な物のイメージを浮かべる練習を続けました。この頃には、かなりうまく図形のイメージを浮かべることができるようになっていました。この練習を数カ月続けた結

果、練習し始めたときは比較にならないほど、イメージを浮かべる能力をつけることができました。特に夜、寝る前に横になったときが最も良いので、このときは特に強烈なイメージを浮かべることができました。

### イメージ練習で眠れなくなる

以前、三交替の仕事をやつたことがあるんですが、このとき昼間は眠れなくて、夜の仕事が眠くて手につかなくなつたことがあります。そこで薬局でアンブルに入つた覚醒剤を買つて使つてみました。これを飲むと、どんなに眠くても飲んだあとは頭が異常なほどにスカツとして、眠気は全くなくなるんです。

ところが、夜寝る前にイメージの練習をしたときも、これとちょうど同じ状態になるんです。練習をする前は眠くて仕方がないのに、練習を始めてからしばらくすると、急に目の前が明るくなって、頭の中が異常にスカツとして、それまでの眠気がウソのようになくなり、風呂上がりの爽快感を何倍も強くしたような気分になります。そして鮮明なイメージがグツと浮かんでくるのです。まるで絵本のページをパラパラとめくるように次々と浮かべることができました。

ところが、これだけ強烈なイメージを浮かべることができると、夜間、

寝る前に限るのです。結局この練習のために非常な寝不足になってしまいました。この練習をしたあとは、覚醒剤を飲んだときと全く同じ状態になってしまい、練習をするのはよいのですが、そのあと頭の中が異常にすっきりして全く眠れなくなるんです。しかしこの状態はニセモノの覚醒状態であって、本当は眠たくなって眠らなければいけないんです。そして、これでは寝不足になって、どうしようもないというところで、この練習法はしばらくやってから、やめました。

## テレビシーで送信

この練習をやめてから半年か一年ぐらいたった頃、私にとって生涯忘れることのできない大事件が起こりました。これは今から九年前、高校二年の夏休みのことです。

このときは学校が夏休みのため、暇をもてあましていたときでしたから、なぜか、ふと、テレビシーでUFOを呼んでみようと思いついたのです。スペース・ビープル（注＝別な惑星から宇宙船で地球へ来ている人々）はテレビシーで話し合っているくらいだから、こちらから想念を送れば、かならず気がついてくれるにちがいないと信じたのです。

そこでまず彼らに想念を送ってから自分の居場所を教えることにしました。

最初に宇宙のイメージを心の中に描き、同時にそのイメージをスペース・ブラザーズに送信します。次に地球を描き、続いて日本列島、東京湾、横浜の順にイメージを描き、横浜の中の自分のいる場所を、「ここです、ここです」というようにイメージで示しました。言葉を用いないで、イメージだけを何度も繰り返し送ったのです。そのあと、もう彼らは気がついただろうと思ひ、空の見える窓の縁の所へ行つて、彼らに想念を送り続けました。しかし、しばらくしてやめてしまいました。

なぜかといいますが、そのときは雲一つない真つ青に晴れた真夏の日中でして、しかもその当時、私が住んでいた家は住宅街の真中でしたので、もしこんな所にUFOが飛んで来たら大騒ぎになると思いついたからです。それでUFOを呼ぶことは諦めてしまったのですが、そのまましばらく空を眺めていました。

こんなときには雲でもあれば、空を見ていても退屈しないんですが、霞すらない真つ青な空でしたので、空を見ているだけでは面白くないのですから、「何か視界に飛んで来てくれればいいのになあ」と思いながら空を眺めていました。

## 円盤が出現、接近ノ

しばらくすると、北の方角から何か

がゆつくりと、こちらの方へ飛んで来るのが見えました。私は初めそれをトンビだと思つたのです。トンビもタカも私の家の周辺にはいないのに、なぜかそう思つて、ずっと見ていました。青空を見飽きていたので、これは絶好の退屈しのぎだとばかりに、いいものが来たと思ひで見えていました。それはトンビが羽を広げて滑空しているように見えたので、いつ羽ばたくのかと楽しみにしていたのです。

ところが、いつまでたつても、そのトンビは羽ばたこうとしないので、何かおかしいぞと思ひました。

それは依然として、ゆつくり私の方へ接近して来ます。それで、この物体はトンビではないということがわかつたのです。大きさもずっと大きいのです。だから物体が得体の知れない物であることはわかりましたが、何であるかの判断はつきません。

形が明瞭に識別できるほどに接近してきたとき、それがいわゆるUFOという漠然とした物ではなく、何と円盤であることが、はっきりわかつたのです！

その円盤はどんな家の方へ近づいて来ましたので、私は非常に興奮し、そのときは、こんなにはつきりと円盤を見た人間は、世界中に多くはいないだろうと思つたのです。目撃している私に、二分興奮状態が続いて、そのあと、こんなにはつきりと円盤を見る

ことはもう一生ないだろうと思ひましたので、目の前にいる円盤を生涯忘れないようにしようと考えて、以前に練習したイメージ法でもって、眼前の円盤を頭の中に焼きつけておくことにしたので。

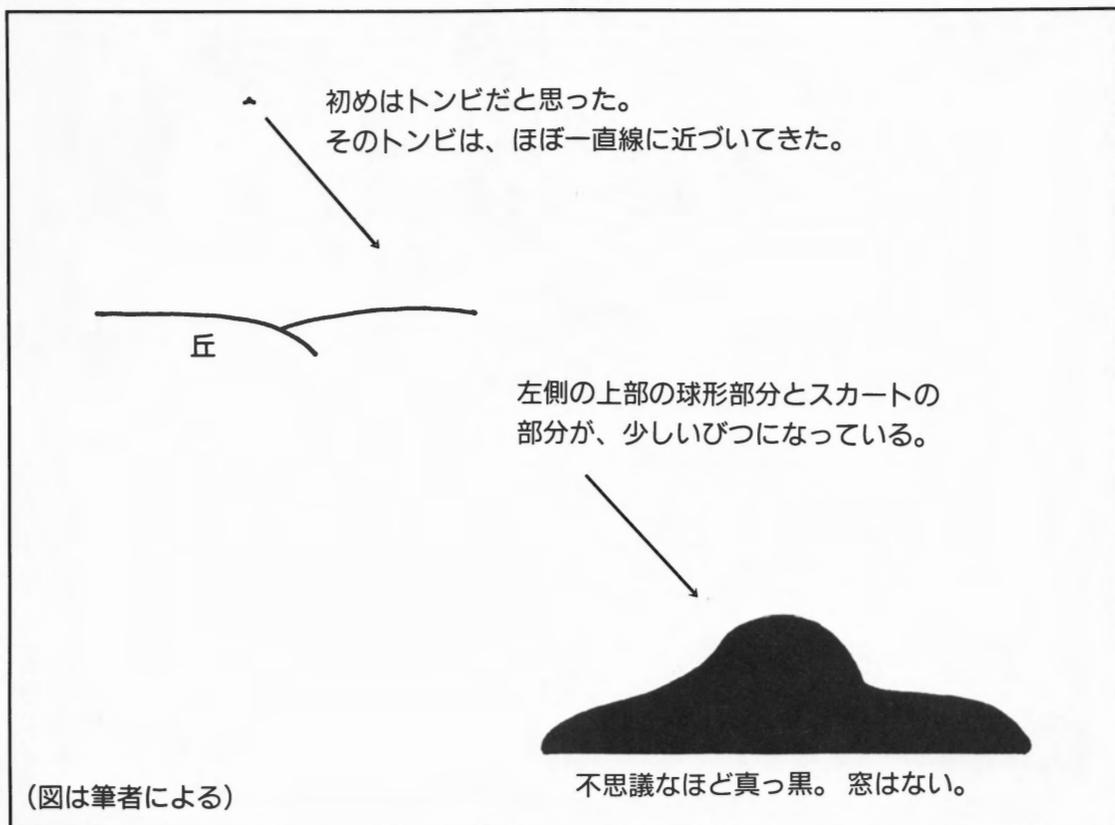
## 円盤のイメージを焼きつける

どのようにしたかといいますが、まず目の前の円盤をしつかりと見ました。それは大きなお皿の上に茶碗を伏せたような形をしていました。アダムスキータイプの円盤に見られるような、下部の球型着陸装置はついていません。

次に円盤の縁をゆつくりとたどるようにして、頭の中にイメージを焼きつけました。次に目をつむって、今頭に焼きつけたイメージを、円盤の縁をたどるようにして、頭の中で再現させたのです。それから目をあけて、目の前の円盤の縁をたどるようにして、頭の中に焼きつけます。そしてまた目をつむって、目の前の円盤を再現させたのです。

このようなことを四、五回繰り返したと思ひます。こうして、もうこの円盤を一生忘れることはないというほどに、しつかりと頭の中に焼きつけました。

続いて何をやるかで二つ考えが浮かびました。一つはこの円盤の写真を撮ることで、もう一つは双眼鏡を使つて



(図は筆者による)

もつとよく見るとのことです。結局双眼鏡による観察の方を選んだのです。なぜかといいますと、目の前にいるのは、いわゆるUFOでもオレンジ色の光体でもなく、まぎれもなく黒い円盤そのものだったものですから、これを写真に撮って、「テレパシーで呼んだら、この円盤が家に飛んで来たんだ」と言つて人に見せても、だれも信用しないだろうと思つたからです。そこで双眼鏡を取りに行きまして、窓ぎわに立つたのですが、もうそのときには円盤がどこにもいないのです。双眼鏡を探すのにちよつと手間取つたんですが、円盤の飛行速度はかなり遅かつたものですから、そのときはちょうど私の家の真上あたりにいたはずなんです。

ベランダに出たりして、三百六十度空を見回したのですが、影も形もなくなつていました。雲一つない青空でしたので、円盤の隠れる場所は全くないはずですが、どこにも見当たりません。

### 白昼なぜ飛来したのか

この円盤の大きさは自動車二台分ぐらいで、最接近時の距離は数百メートルだつたと思います。そしてこの円盤は船体が異様に黒く見えるんです。北の方角から飛んできましたので、逆光ではないはずですが、不自然なほどに真っ黒く見えました。

窓はありません。とにかく真っ黒で、大きな皿の上にコーヒークップか茶碗を伏せたような、典型的な円盤の形をした真っ黒い物体という感じで、それが約五分ほどでゆっくり飛んで来たわけです。

この目撃のあとには非常に興奮しました。大体、円盤というものは、何かの理由があるのか、はつきりとは姿を見せないのが普通でして、アダムスキー氏のような、ごく一部の立派な人にだけ姿をはつきりと見せるものだ、そのときまで思っていましたので、見てはいけないものを見てしまったような感じでした。

たしかに私がテレパシーで呼んだのですが、それはオレンジ色の光体であつて、「円盤を近くで見せてくれ」というだけそれた考えは全く起こしていません。あの人がテレパシーでUFOを呼んだら円盤の形がはつきり見えるぐらい近くに飛んで来たという事件は、その手の雑誌やその頃のGAP機関誌にも例がなくて、なんでわざわざ私のようなつまらない人間の所へ飛んで来たのかと思つたのです。しかも雲一つない真夏の真昼間の住宅街にです。

### 重大な解答を与えた円盤

この興奮がさめやらぬうちに、この事件には目撃体験などを吹き飛ばして

しまうような、はるかに深い精神的な意味があることに気づいたのです。

円盤の目撃のあと、円盤がある変わった出現の仕方をしていたことが妙に気になっていまして、しきりにそのことを考えていたんです。そして考えているうちに、あることに気づいたので。それは次のとおりです。

その目撃の四年前、私がまだ中学の一年生だったとき、円盤を見たくて仕方のない時期がありました。まだアダムスキー問題に関心はなかった頃で、その当時、一人で円盤を自宅から呼んだことがあるんです。

そのときは全く何も現れなかったんですが、そのあと自分の記憶に非常に印象に残っている、ある出来事があったのですが、なんとこの日の円盤の出現は、そのときの解答であったことがわかったのです。その解答は変わった出現の仕方とびつたり一致していたのです。この解答というものは、口では表現できない精神的な深い意味を持つものでした。しかも、中学生のときには円盤を見たくて、ある事をやったのですが、そのことは私一人しか知らないはずなのに、スペース・ピープルはそれを上から、ちゃんと見ていたのです。私もしキリスト教徒であったならば、そのとき私は「神を見た」と言ったことでしょうか。

どういう内容かは私の非常にプライベートな問題になりますので、省略し

ますが、そのことが判明したとき、頭をこん棒で殴られたような非常なショックを受けました。このショックで円盤の目撃という大事件も、吹き飛んでしまいました。

### 地球人の向上を望んでいる

結局その事件によって、彼らは円盤を地球人に見せて自分たちの存在を認めさせようとしているのではなくて、地球人が精神的・宇宙的な向上をなしとげていくように促しているというところが、はつきりとわかりました。そのため、この円盤目撃事件についてはだれにも話さず、私の胸にだけしまっておこうと決心したので。

もしこの話を人に話したとしても、相手にされないで、円盤の目撃ばかりに関心が持たれて、精神的な深遠な問題は私個人にしか証明することができないという特殊な状態でありますので、スペース・ピープルの精神的意図を伝えることができないために、この話を他人にしても、単なる円盤目撃事件に終わると思つたからです。

結局この事件が発生してから七年ぐらひは全くだれにも話しませんでした。しかしこの二年ほど前から考えが変わりまして、特に円盤問題にある程度肯定的な人には少し話すことにしています。ただし単なる円盤目撃事件としてです。

### またUFOを目撃

つい最近もUFOを見ました。四月の東京月例会から帰る途中、千葉県の茂原駅から家に向かって五分ぐらい歩いたとき、中央が白くて、まわりがブルーの色をしたUFOが、自分が帰ろうとする家の北西の方角に向かって飛んで行くのを見ました。非常にきれいなUFOだったので、「いやあ、きれいなUFOだなあ」と感嘆して見ていました。

みかけの大きさは、低空を飛んでいる飛行機の点滅しない白いライトぐらいで、その周囲をきれいなブルーの光が大きく包んでいます。高度は、飛行機が最も高く飛んだときぐらいの高さで、かなり速くて、流星ほどのスピードではありませんが、飛行機では到底出せないような速度でした。

このUFOは、大変勝手な考えですが、私だけに見せようとするかのように見えませんでしたので、何かの意味があるのではないかと思いました。

このときは月例会の帰りでもあったので、自分とGAPとの関係の何かを意味することは予測がついたのですが、私としては、月例会の帰りにUFOが出現してくれるような貢献をGAPにたいしてした覚えはないので、思いあたるフシがないのです。

それから三日後に東京月例会の名司

会者である篠さんから電話がかかってきました。内容は東京月例会で会員として体験講演をやってくれないかという話です。

とたんに私は「ああ、やっぱりあのときのUFOは「悪魔」の使者だったのか」と思ったのです。今まで見たこともないような、私の好みの色のきれいなUFOでした(注||これはユーモラスに表現したもの)。いや、あれは天使です!

数年前に本誌(UFOコンタクトテイ)の書店直販を始めようとしたときにも、こんなことがありました。

現在私は三軒の書店に直販をお願いしているのですが、この内の一軒に、非常に協力的で、店内の最も目立つ所に本誌を置いて下さったり、いつも気をつけて頂いて、頭の下がる思いをしている書店さんがあるんです。

この書店さんに初めて本誌の直販にうかがったとき、お話を聞くと、その店の店長さんはまだ若い女性なんです。その方のお姉さんがUFOを目撃して、驚いて妹さんに「今すごいUFOを見た!」と電話で知らせたのだそうです。店長さんの協力をスペース・ピープルが知って出現されたのでしょうか。自分のいままでの人生をふり返ってみますと、イメージ法によって多くの変化を起こしていることがわかります。それでイメージ法は運命の変化のため大きなパワーだと感じています。

# 八丈富士山麓でUFOを撮影

## 初めて見るUFOに興奮!

谷本英雄  
〈横浜山岳写真クラブ会員〉  
 日本GAP会員〉

六十一年四月七日(月)午前二時三十分頃、私は八丈島の八丈富士登山口から少し奥に入った山道脇でハレー彗星の予備撮影を終え、そろそろカメラを替えて本番に入ろうかと思っていた。八丈島に来た甲斐あって、空は澄んで雲一つなく、星の光が目にしみるように、絶好の撮影日和である。しかも地平線上のモヤが少しとれて、心なしかハレーがよく見えてきた。

そのとき、南の空を眺めていた視野の中で、赤い星がスッと西から南の方向に動いた。視野の外から入ってきたのではなく、視野の中の星が動いたという感じだった。

一瞬流星かと思ったが、すぐ速度が落ち、はねたり下降したりという状態で、ゆっくりと南へ移動して行く。大きさは他の星々にくらべて中間より少し大きめぐらい。色も他の星よりは少し赤味があった程度で、点滅や強弱の変化もなく、音も聞こえない。

UFOか!と思うと同時に反射的にカメラに飛びつき、方向を確認してシャッターを切った。

カメラはハレーを撮ったままの状態です。三脚にセットしてあった。旧式だが

キャノネット(40mm、F1.7)で、絞りをf2、シャッターをBにセットし、レリーズをつけたままにしていたのはラッキーだった。フィルムはフジカラー一六〇〇で、枚数には余裕があった。

最初のシャッタースピードは一秒くらい、二枚目は二、三秒程度、三枚目は七、八秒。ファインダーをのぞきながら、その中に赤い玉がうごめいているのを見て、しだいに興奮してきた。

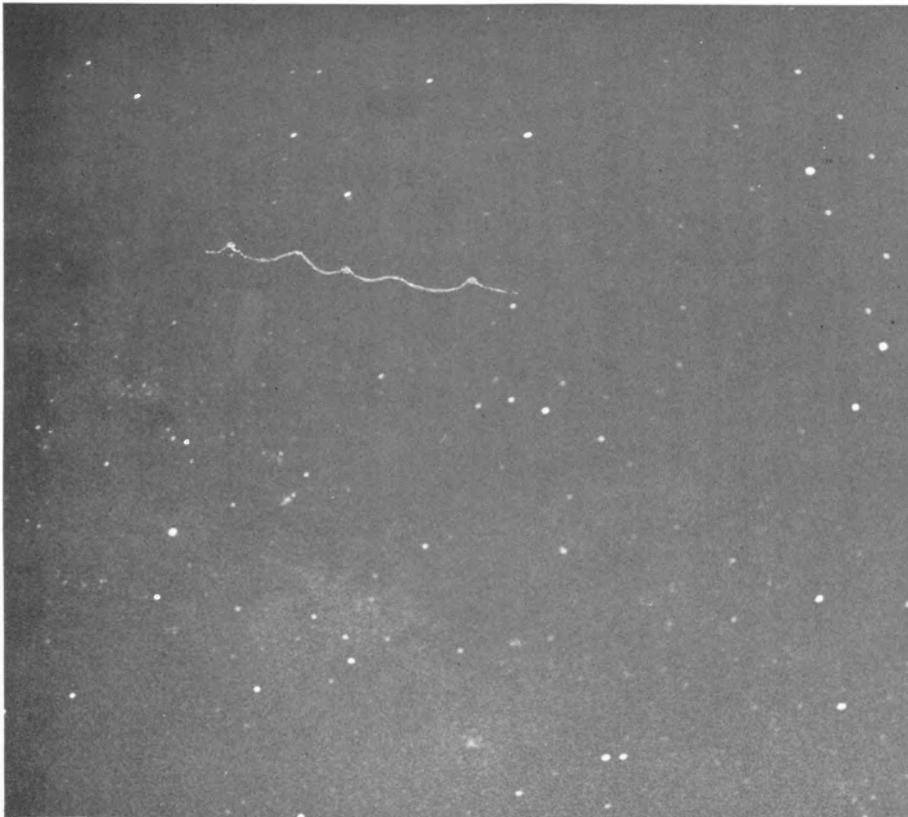
今までUFOについて読んだり聞いたりはいたが、自分で見るのは初めてで、しかも撮影しているのだ!

赤い玉はジグザグでゆっくり東の方向に動いている。カメラの向きを少し東に変えて四枚目のシャッターを切った。玉は火星よりさらに東へ移動し、ふらついていったが、しだいに小さくなり、ついに視界から消えた。時計を見ると二時三十四分四十三秒である。最初に発見してから見えなくなるまでに三十数秒を要し、この間に四枚の写真が撮れたのは幸運だった。フィルムは二倍増感現像をした。

**編者注** 俗に八丈富士と呼ばれるのは島の北西部に位置する西山(八五四m)である。ここに掲載したのは三枚目の

写真で、波形の軌跡を描いた物体は蛇使い座の南を左へ進行している。左下に大きく光るのは火星。この写真を鑑定した春川正一氏によると、これは直径一メートルほどの超小型円盤で、そ

のことは写真から出るオーラでわかるという。上方が北。ハレー彗星は下方の南にあり、写真に入っていない。谷本氏は団体事務局長。五十五歳。山岳写真のベテラン。



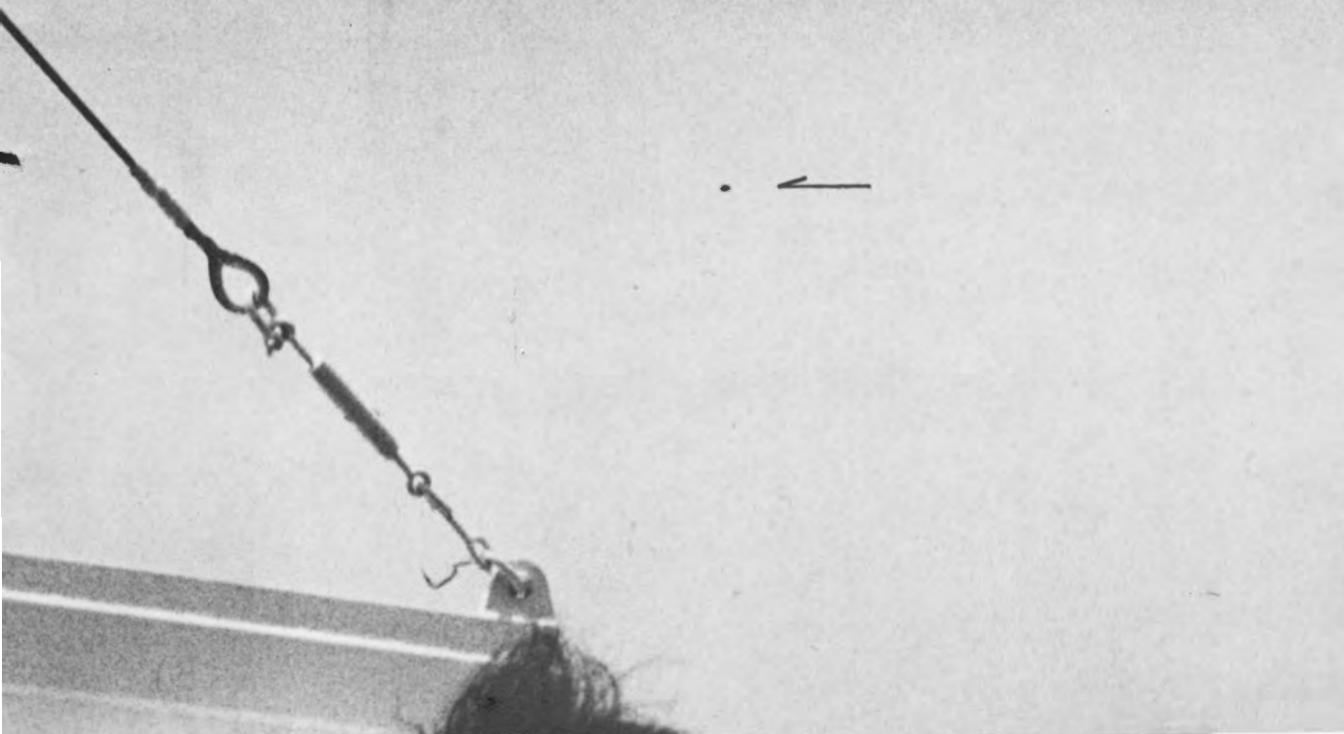
# 清水港上空のUFO

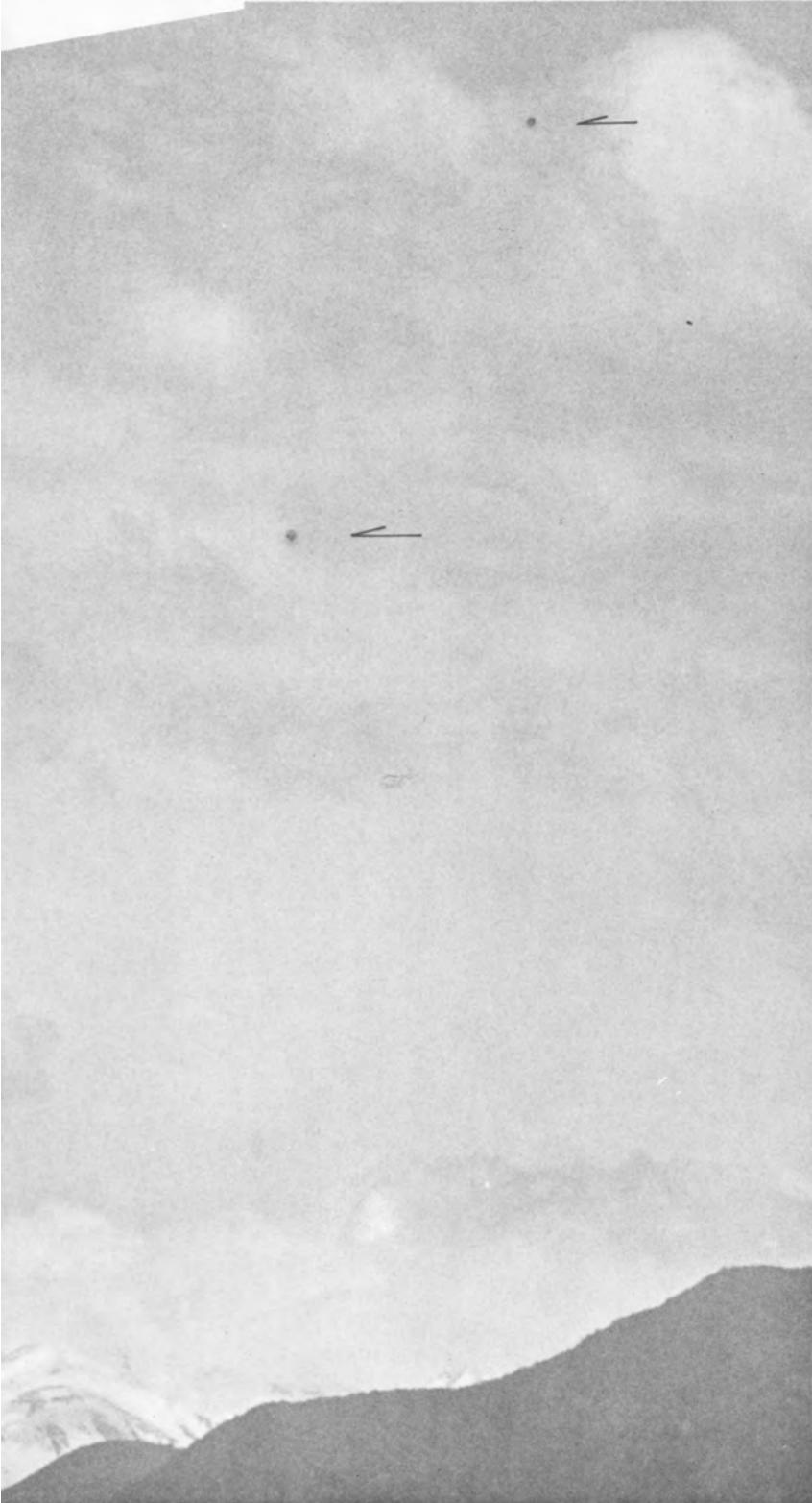
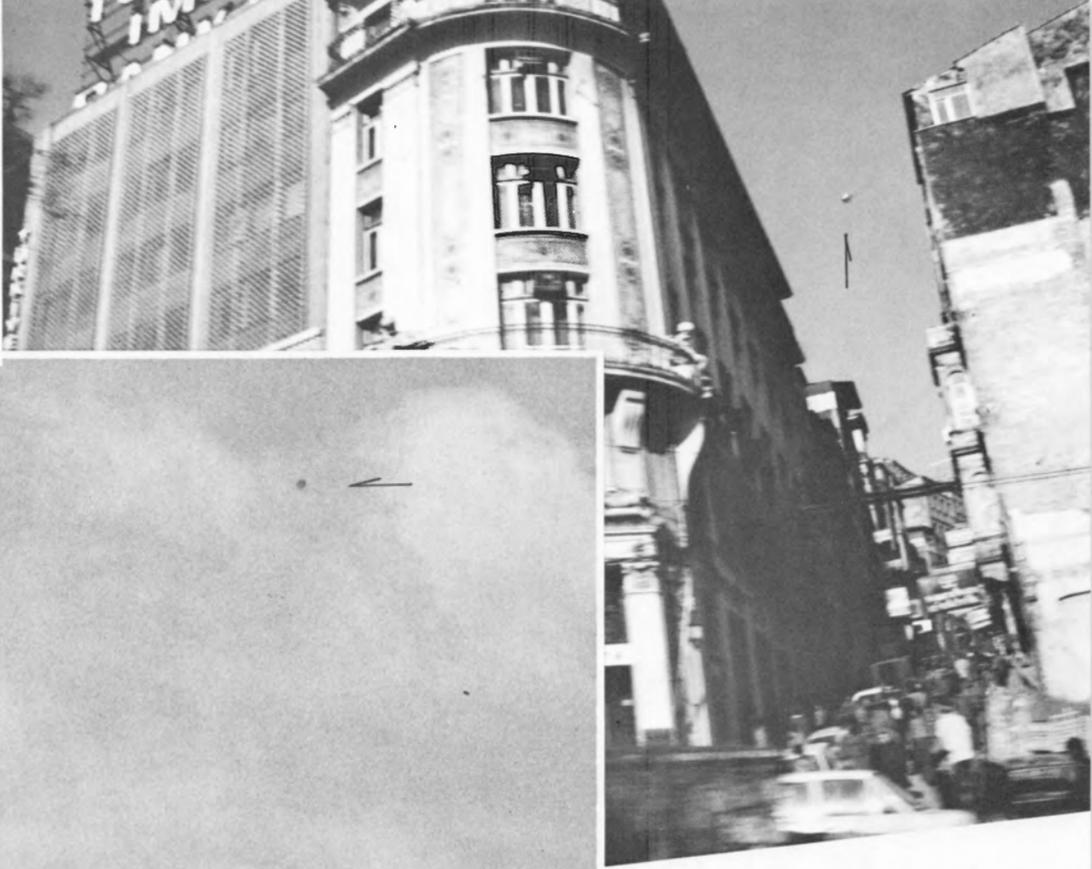
本年五月五日、空前の大盛況を呈した日本GAP静岡支部大会の翌日、快晴下にGAP観光団は清水港より遊覧船で港湾を周遊したが、午前十一時三十分頃、船上で松山支部代表・伊藤達夫氏が船尾の方向を撮影したところ、現像後、空中に黒い物体が写っていた。

船が三保の船着場へ着いたとき、迎えに来ていた筒井徹氏(静岡支部会員)が「船の後方上空にピカピカ光る物体が見えた」と言ったという。この写真は船尾の方向を撮影しているので、同一の物体を写したのかもしれない。

精査するとアダムスキー型円盤を斜め下方から見上げた形に見える。これも春川正一氏によると、まぎれもないアダムスキー型円盤だという。ただし船上では当時だれも気づかなかった。上は拡大写真。

アサヒペンタックスSPFF、28mmレンズ、絞りF11、1/500秒。原画はカラー。





## A White Object Over Istanbul

### ▲イスタンブール上空の白い物体

昭和五十九年一月三日、団体旅行でトルコ・イスタンブールへ行った萩原昭彦氏（横浜市・GAP会員）が市内を撮影したら、現像後に白い球体が写っていた。日光による影まで写っている（矢印）。

## UFOs Appearing Over Matsumoto

### ◀松本市のUFO群

昭和61年5月25日、長野支部大会に出席のため来松した松村芳之氏（東京・会長助手）が当日午前10時頃、松本市のアルプス分園付近から日本アルプスの方向を望遠レンズで撮影した写真に数機のUFOが浮かび出た（矢印）。2点の写真共、春川正一氏が本物と確認している。

# 地球を救う愛の想念放射運動

## 地球を抱きしめるような愛のフィーリングを!

山崎清美

今年五月四日、初めて静岡支部大会に参加したとき、久保田先生のご講演の中で、「日本民族は想念の力が強いので、日本人の九パーセントないし十パーセントが結集して世界の平和を思念するならば、世界で戦争がなくなる」ということを聞きました。

なんて素晴らしいことでしょう。日本人として生まれ、こんな話を聞いたら早速実行せざるにはいられません。参加された皆さんもそう思ったことでしょう。

しかし問題は結集することにあります。世界平和はいろいろな宗教団体やグループが掲げていますが、みな自分たちが正しいと主張し、分裂していません。これでは平和にならないでしょう。あらゆる団体や人々が統一された想念を放射するならば、世界はすぐに平和になるでしょうが、現段階では簡単にいきません。

そこで、まずは日本GAPだけでも結集し、想念放射の輪を広げたらどうかと思うのです。つまり個々バラバラにやるよりも、同じ時刻にみんなで行

つせいに想念放射を行えば、その想念波動は強烈になると考えられるからです。

### 一定の時間帯をきめる

それで毎日同じ時刻にみんな愛の想念を放射しようじゃないかと、帰りの電車の中で、一緒に帰ってきたメンバーに提案したところ、みんなが同意してくれたので、その日から始めることにしました。時間帯のことを考えましたが、午後九時五十分から十時五分の間にテレパシー練習をしている方や支部も多いので、意識と一体化した後について実行していただけだと思いい、午後十時五分から十時十分までの五分間にきめました。

### 愛のフィーリングが起る

私は毎日その時間がくると想念をしますが、初めはどう思念したらよいかわかりませんでしたので、最も良い方法を知らないと上空に想念を送り、意

識からの印象を待ちました。すると次第にあるフィーリングが強烈にわいてくるのです。しかしそれが何なのかよくわかりませんので、イライラして胃のあたりがもやもやし、不完全燃焼のような状態でした。

しかし五月十日にいつものように東京月例会に出席しました。この日、自己紹介のときに地球の進歩と宇宙の平和を願ってみんな愛を放射しようと呼びかけました。

その夜、自分の求めていたものが少しずつ鮮明になってきて、愛のフィーリングがわき起こってきた。何かをたまらなく愛しているというフィーリングです。いとおしくていとおしくて抱きしめたくなるような思いです。と同時に不可解であったことや疑問に思っていたことがどんどん理解できるようになり、これからの自分の方向も見えてきました。

### 月に擬装した円盤が出現?

翌日の五月十一日、私はいつもの友人たち(大場静子、橋本由紀子、平野祥子)にとても会いたくなり、私の所へ集まる約束をして駅前で合流しました。

大場さんがちよつと遅れるということなので、橋本さんに駅で待っていてもらい、私は平野さんと一緒に近くのスーパーマーケットへ買物に行きました。

た。

話しながら歩いていて、ふと前方の空を見上げると、とても雲の多い日だったのに真正面に晴れ間ができていて、その真ん中に真っ白い、まん丸い月が出ていました。「うわあ、きれいだなあ」と思い、平野さんに呼びかけますと、彼女も見上げました。

しかし雲が多くて、みるみるうちに左上の方から雲の中に隠れたのです。西の方向で、時刻は午後四時五十分頃です。

そして次の日の五月十二日、会社の帰りに空を見ると、オレンジ色の三日月が出ていたのでびっくりしました。昨日はまん丸だったのに、いくらなんでも満月が一日で三日月になるなんておかしなことです。

もしかすると、あのオレンジ色の三日月は円盤だったのかもしれない、よく確かめようと家に帰って近くの公園でしばらく観察しましたが、いくら見ても月に間違いないようです。十六日(金)の月は半月でした。

しかし日曜日の白い満月のことが気になってしょうがないので、平野さんに電話をかけてみると、なんと一緒に平野さんが見た月はまん丸ではなくて、三日月よりも細かったというのです! 私が「月がきれいだわあ」と言った直後に二人で同じ物を見たのに、私が見た月はまん丸で、平野さんが見たのは細かったとは! またもびっくりし



てしまいました。  
二人とも決して見間違いや錯覚を起  
こしたのではありません。私はそのと  
きコンパクトレンズをしていたので、  
空にくっきり浮かんだまん丸いまっ白  
な月を見たのです。雲に隠れるときも  
丸いままでしたし、今でも印象に残っ  
ています。  
同時に平野さんが見たのは白くて細  
い月で、私が言うほどきれいだとは思  
わなかったそうです。彼女も二日後の  
会社の帰りに、日曜日に私が月がきれ  
いだと言っていたのを思い出して見た  
そうです。それは少し太くなった本當  
の三日月だったと言っていました。  
後に天文台に問い合わせたところ、  
九日が新月だったそうですから、彼女  
が見たのは本當の月だったのでしょう。

▲筆者・山崎清美さん。昭和五十九年八月、  
エルサレム郊外、聖母訪問教会にて。

(編者写真)

その夜、久保田先生に電話で聞いた  
ところ、「それはきつと円盤だね。も  
のすごい技術を持つスペース・ピープ  
ルならば、月のように見せかけるのは  
朝飯前だからね」ということでした。  
**スペース・ピープルの祝福?**

これが昨年四月二十八日の富士山麓  
朝霧高原上空に出現した「月擬装円盤」  
と同じ現象だったとすれば、私はとて  
も嬉しいのです(編注)この事件につ  
いては本誌90号に「朝霧高原の不思議  
な「月」と題する詳細な記事が掲載  
されている。

五年前、宇宙哲学を学んでいこうと  
決心したときにも太陽擬装円盤を見せ  
ていただきましたが、これもすごい現  
象でした。今回も自分自身の変革を起  
こしたからこそ出現されたのでしょう。  
そうだとすれば、私の変革の方向が正  
しかったからだと思えます。「それで  
いいんだよ」とスペース・ピープルが  
祝福して下さったように思えてなりま  
せん。またこれは前日の東京月例会で  
の積極的な呼びかけにたいする激励な  
のかもしれない。そうだとすれば感  
謝感激なのですが――。

### 愛はすぐ存在している

白い月を見てから二日後の十三日、  
思念する時間がきたので、想念放射を  
始めますと、急にまた愛のフィーリン  
グが起こってきて、いろいろなことが  
わかってきました。

何がわかったかといいますと、いま  
で愛のフィーリングがわき起こったと  
きは、それをだれかに与えたくて無理  
やりその対象となる人を探していたの  
ですが、そうではなくて、その愛のフ  
ィーリングはすでにそこに存在するも  
のなのだということが理解できたので  
す。もともと愛を感じているからこそ  
愛するのです。

友人の橋本さんが言っていました。  
人間は呼吸をするのと同じように、創  
造主からの愛を吸い込んでいるのだか

ら、それを吐き出さなくてはいけない。  
これが自然の愛の呼吸なのだ。本當  
にそのとおりです。でも以前、私は愛  
を感じても、それをどうしたらよいか  
わからずにもやもやしていたのです。

### 愛の想念放射運動に参加を

地球を進歩させる一番の近道は、地  
球自体の波動を高めることです。それ  
には愛のパワーが一番です。私は思念  
するときに最も良い方法を知りました。  
それは地球を抱きしめるフィーリング  
です。たまらなくいいおしい地球。愛  
する地球。いとおしくていいおしくて  
抱きしめたくくなるような地球。このよ  
うなフィーリングと、実際に地球を抱  
きしめているイメージ。これが最高で  
す!

私は、まだ自分自身の「半身」(宇宙の  
意識)に気づいていない多くの人たち  
に、少しでも知ろうとする動機やきつ  
かけをつかんでほしいと願っています。  
このつたない記事を読んで、少しで  
も共鳴された方は、地球を救い宇宙を  
平和にする「愛の想念放射運動」に参  
加しませんか。申込は不要です。夜の  
十時五分から十分までの五分間、ベッ  
ドの中でもどこにいてもかまいません  
から、地球にたいする愛の思いを気軽  
に楽しく起こして、その想念を空間に  
放射して下さい。あなた自身も素晴ら  
しい波動に包まれることでしょう。

# 母船の周囲には人工大気層がある

質疑応答(連載第4回)  
ジョージ・アダムスキー / 久保田八郎訳

問47 『宇宙船の内部』(日本語版アダムスキー全集第1巻『宇宙からの訪問者』第2部に収録)に述べてありますが、宇宙空間に停止している母船の頂上を、あなたが歩くことができた様子についてもっと詳細に説明して下さいませんか。

答 これはきわめて容易に説明できます。私があの手物で何度も述べたように、こうした母船の周囲にはフォース・フィールドがあり、これは惑星を取り巻く大気圏にたとえられます。自然界の多くの面の内部には機械装置の青写真が見られます。スペース・ピープルは宇宙船の建造に際して彼ら自身の惑星を支配している基本的な法則を応用したにすぎません。

私たちは気づいていませんが私たちも(地球という)巨大な宇宙船の表面で生きているのです。地球はその軌道を秒速二百六十キロメートルというものすごいスピードで移動しており、同時に秒速約三十キロメートルで自転しています。

しかし私たちはその動きを感じません

んし、引力による難儀な状態も体験しません。なぜなら私たちはこの巨大な球体を取り囲んでいる大気によって保護されているからです。しかしこの大気は宇宙空間を動きまわる地球の動きによって作り出されているのです。スペース・ピープルは(注||原書でも space people となっている)この現象のすべてを注意深く分析し、彼らの宇宙船の周囲に保護用のフォース・フィールド、すなわち「大気」を人工的に作り出す機械的な装置を船体内に内蔵させているのです。

このフォース・フィールドの濃度、すなわち機械的に生じる圧力は、船体の運動中または空中に停止中にも調整できます。船体内の圧力と船体外部を直接取り巻いている圧力は常に同じです。そして惑星の大気圏と同様に、フォース・フィールドが船体から遠ざかるにつれて、それは薄くなつてゆきます。もちろん彼らの最大の宇宙船といえども大きさにおいて惑星とは比較になりませんので、このフォース・フィールドは比較的短距離に伸びるだけで

すが、原理は同じです。

大母船へ私を運んだ円盤は、地球の飛行機が海軍の大航空母艦の飛行甲板に着艦するのと同じように、母船の上部へ着船しましたが、母船のフォース・フィールドのために、私は地球上の大気似た空気層の中へ円盤から降り立ったのです。ハッチを通して大母船内に入るときは、パイロットも私もいかなる気圧の変化も感じませんでした。

両横腹が急傾斜している船体上の狭い通路を歩いている私の姿を想像した人もあつたようですが、これは誤っています。断言しますが、この母船の巨大さからみればこれは正しくありません。私が言える最もわかりやすい説明としては、地球上のいかなる船よりも何倍も大きな船の甲板を歩いているのと同じことです。広くて平たい表面が私の周囲に広がっており、自分の立つていた所から船体が湾曲しているという感じはしませんでした。

(注||『宇宙からの訪問者』(文久書林刊アダムスキー全集第1巻)の三二七頁にアダムスキーが母船の頂上を歩いた体験が述べてある。大気圏内の空気の希薄な所か、または大気圏外と思われる宇宙空間で、円盤から出て母船の頂上を宇宙服なしで歩けるはずはないという理由で、この部分は特に批判的になつていた。それにたいしてアダムスキーが真相を述べたのである。この点は『宇宙からの訪問者』中で詳述

するべきだった)

問48 母船の丸窓の所に顔を出しているあなたとオーソンの写真は、なぜ大きな釣合いがとれていないように見えるのですか。(注||この写真を撮影した状況も同書三二七頁から三二九頁にかけて詳述しており、写真も巻頭の口絵の最後に掲載されている)

答 まず第一にあなたは大気圏外は暗黒であることを忘れてはなりません。第二に、この母船の内側の丸窓と外側の丸窓の間隔は約二メートルあり、その間はトンネルのようなすき間になっていることも知る必要があります。得られる唯一の光は、円盤から放射されるビームが母船に照らされるときだけでした。したがってこの光はトンネルの中をつらぬいて私たちの顔を照らす必要があつたのです。この件に関連した多くの要素を考えてみますと、何らかの写真を撮ることのできたこの人たち(スペース・ピープル)の能力に私は今もなお驚嘆しています。

この母船の横腹を照らした光は、船体の全部を写し出しているのだという誤つた考えを持つている人があります。そのとおりだと思ひ込んで怒つているある反対論者は、この写真では丸窓の直径は少なくとも九メートルになり、オーソンと私の顔は巨大なものになるはずだと数学的に証拠づけています。『宇宙からの訪問者』はこの点でもっと詳細な説明をするべきだったと私は

いま気づいていますが、まさか光で照らされた部分だけを船体（の全体）だと勘違いする人があろうとは夢想もありませんでした。

このときの一連の写真（複数）のなかに、円盤側の丸窓の一部分が左上の隅に写っているのがあるのは大変興味深いことです。この写真類は円盤が母船の横で動きながら種々の距離で撮影されましたので、同じ大きさで写っている写真はなことがわかります。

〔注〕日本語版「宇宙からの訪問者」にはこのときの一連の写真の内、一枚だけが掲載してある）

**問49 宇宙人の来訪のことが聖書の中に述べてありますか。**

**答** たしかに述べてあります。私は個人的に正確な言及回数を知りませんが、牧師たちは四百個以上も見られると報告しており、その調査はなおも続いています。大切なのは、古代人の言語は宇宙船やその乗員を記述する言葉を持たなかったという事実です。そこで彼らはだれもが知っている言葉や譬などをを用いました。その譬のなかには、「火のような戦車」「語る雲」、鳥のように空中を飛べることを意味する「肩に羽のついた人間」などがあります。この羽のある人間を彼らは天使と呼んでいますが、元の意味は「メッセンジャー」、すなわち遣わされた人」です。

ちよつと考えてごらん下さい。かりにあなたが飛行機のことを全然聞いたことがないとし、そんな言葉も持たないとして、それが突然あなたの近くに着陸したとすれば、あなたは飛行機とパイロットをどんなふうに表示しますか。だれしも鳥は飛ぶことができることを知っていますから、それで彼らは羽のある人間を描いたのです。しかしこの人々はあらゆる点で肉体的に正常であつたのです！

雲も空中から現れます。そこで宇宙から来た訪問者たちが地上の人々とコミュニケーションしたときに、彼らは宇宙船を「語る雲」と描写したのでした。戦車は当時の彼らの輸送手段でした。それで宇宙船が色を変化させながら輝いたとき、彼らは「火のような戦車」と言ったのです。彼らは人間がこの船体内に乗っていたことを知っていたからです。彼らは宇宙からの訪問者たちを地球人と区別するために「主」とか「神」などと呼びました。

聖書を研究するときには、記録されている「天空」からの来訪のほとんすべては、地球人が非常に難儀な状態におちいったときに発生していることに注目するとよいでしょう。当時は現代と同じように、多数の人がコンタクトされたのではなく、あちこちで個人が選ばれたのです。古代においては来訪者たちは地球人に助言を与えましたが、地球人がその助言に従ったときは危険のせまつた文明を救うことができ

ましたけれども、助言を無視したときは、その文明は結果的に忘却の中に沈んでいきます。今日、私たちはまたも重大な岐路に立っています。スペース・ピープルは私たちに警告し、援助しようとして最善を尽くしていますが、最終的な決定は私たちの手にかかっています。

**問50 あなたがブラザーズ（友好的な異星人）から聞かされたことにかんがみて、アダムとイヴの物語をどのように説明しますか。**

**答** 創世記の始めの二章は宇宙の創造の物語を述べています。第一章は現象界の各細部が神の心の中でどのように注意深く作られたかを語り、それから「良し」と宣言しています。大切なのは、何かが物質的な形あるものにされる前に、それはまず概念としてはらまれる必要があつたことです。この章は天空すなわち宇宙から、神の「似姿」に作られた「人間」に至るまで、万物の創造に用いられた原型を説明しています。

第二章では、こうした神の「イメー」がどのようにして現象化されたかが語られています。つまり「主なる神は土のチリで人を作り、命の息をその鼻に吹き入れた」のです（創世記二・七）。

この物語全体は基本的創造の譬話で、一惑星、または二人の人間だけに限るものではありません。それは大宇宙全体のあらゆる人間の起源を描写したものです。

アダムとイヴの個人的概念になおも固執する人に次のような質問をしてもよからうと思えます。

アダムとイヴは地球上で唯一の人間と思われていて、しかも当時、彼らの唯一の子供はカインとアベルでした。そしてカインが弟を殺した後に、（エデンの東の）ノドの地に住んで、その住人のなかから妻をとりますが、その住人たちとはだれだったのでしようか？

この住人たちというのは実在した人々です。聖書はアダムの家系と同様にカイン夫婦の家系を伝えているからです。

アダムとイヴというのは、宇宙の全人類の原型だという説明が、無数の人々のためにこの不可解な謎の解答となつていきます。以上がブラザーズから私に与えられたこの物語の説明です。

**問51 あなたが言っておられることを確認するため、同時に地球人の未来の行動に強力な影響を与えるために、スペース・ピープルは地球のラジオやテレビ局を利用して全世界にメッセー」を放送してはどうでしょう。彼らのパワーや言語の知識をもつても、これはできないのですか。**

**答** 言語が障壁にならないことはたしかですが、彼らの装置のすべては宇宙空間の自然のパワーにもとづいて作動します。一方、地球の装置類は人工的

なパワーだけを用いるように作られています。したがって、もし彼らが私たちの装置にメッセージを送ったとすれば、パワーの差のために、地球の現在の装置類のすべては焼けてしまうでしょう。これは直流用と交流用に作られた物を操作しようとするにたとえられます。これは個々の受信機に影響を与えるばかりでなく、世界中の全放送局が使用不能になるでしょう。なぜならスペース・ピープルが用いる宇宙の電流は、私たちの想像し得る以上にはるかに多くのパワーを運んでいるからです。

したがって現在、このような試みで達成されると思われる事もすべて、地球上の装置を破壊するだけで、その結果、世界中の人々の心に恐怖を植えつけるだけです。スペース・ピープルはこんなことを望んでいません。

しかし彼らはこのようなコミュニケーションションがいつでも当を得るといふことになれば、地球の受信セットを通じて安全に放送できるような変換手段を現在研究中だと私は聞いています。もしこれが行われれば、メッセージの源泉についてはだれの心にも全く疑惑は起こらないでしょう。というのは、そのメッセージは世界のあらゆる場所であらゆる言語で同時に聞こえるからです。

このことが行われると断言しているわけではありません。これは約束でもな

ければ予言でもありません。地球人の自己満足を払い落とす必要が起こるならば、その可能性はあると言うにすぎません。事前の警告は与えられないことが私にわかっています。メッセージそのものは、地球と他の惑星群とのあいだの機械的なコミュニケーションがうまく確立されたという最初の声明になるでしょう。

## 地球は成長のための最高の場所

問52 ある人々は、あたかも自分が地球人ではないかのような違和感を持っていますが、この理由が説明できますか。

答 あらゆる人間は過去世の体験の記憶を持って生まれます。これは学校の前学年で学んだレッスンの記憶を運びながら新学年を迎える子供にたとえられます。人間の生命の連続にたいする理解の不足のために、一般の幼児は大人の既成概念にむりやり従うように洗脳の道を出発させられます。そして幼児期に入るまでには、この誤った導きにより取り返しつかないほどに記憶という宝石を覆い隠してしまうのが普通です。そして大人になるまでには、今生でかかつて体験しなかつた何かの物事にたいする親しみのフィーリングが時折ひらめく以外は、大抵の人は過去世の記憶をずつと持っていることに全く気づきません。

自分の記憶の思い出を完全に失っていない人が、あちこちにいます。その思い出は完全にそれを理解するほどに鮮明ではありません。その結果、本人は言いようのない不安と、「これは自分とは関係ないことだ」という感じにおそわれます。本人は「何か」を常に探し求めているように見えますが、何を求めようとしているのかは自分にもわかりません。

もし本人が自分自身を理解するならば、この謎はすぐに解けるでしょう。そのとき自分の過去世の光景が鮮明になるからです。

しかし私がどんなに強調してもしづむることがないのは、人間の誕生の過程が重要なものはないという点です！ 私たちは地球という惑星上で両親のもとに生まれますが、この世界は私たちの成長と発展が最上に完成される場所なのです。

私たちの小さな地球をも含むあらゆる惑星は、等しく唯一の創造主の聖なる現れです。ある人々が「故郷へ帰る」と表現するような憧れは、生活の現実から逃げ出そうとする子供っぽい欲求です（注：UFO研究家のなかに、自分は別な惑星から地球へ転生してきた人間で、使命を果たしてから、また故郷の惑星へ帰って行くのだと言う人たちが一九五〇年代後半にいたために、それによってアダムスキーが警告したものと思われる）。

私たちはみな遂行しなければならぬ仕事を持って地球へ来たのです。したがって自分の記憶の一部をとどめている人たちは、「父の家（大宇宙）のこの館（地球）」の欠点を絶えず見出し出そうとするよりも、自分自身の理解と自分がここに存在する理由を探求するほうがよいでしょう。なぜなら私たちが全体としてのパターンを見て、次に神の計画の中で演じるように意図された役割を認めるには、理解力しかないからです。

私たちの惑星地球は、この太陽系中の他の惑星に従属するものではありません。こんな妄想は地球に住むそんな人（注：自分は別な惑星へ帰って行くのだと称する人）によって作り出されたものにはすぎません。したがって、姉妹惑星群と並んで正当な地位を得ようとして地球がなすつつある進歩は、この地球に住んでいる各個人の手にかかっているのですから、心の中に喜びをもつて私たちの運命の遂行に努力しようではありませんか。

問53 UFOは世界の他の場所よりもなぜアメリカ南部に多く見られるのですか（注：これは一九五〇年代の状況）。

答 これは誤った考え方だと思えます。この地域から出た目撃報告により多くの周知性が与えられてきたことはあり得るのですが、私が郵便で受け取った情報から判断すれば——それは世界

中から来るのですが——、少し名をあげただけでもイングランド、オーストラリア、ニュージーランド、南米、メキシコのような国でもっと多くの目撃があることがわかります。報告者の多くは私宛に詳細な内容を書いていますが、一方では目撃を報告することによって嘲笑されたり官憲にそつけない否定をされたりすることを嫌がっています。

大抵の都市住民は自分の仕事や遊びの追求で大変忙しいために、めったに空を見上げようとはしません。ところが、私は事実上あらゆる大都市から何度も目撃されたという報告を受け取っています。確かめ得る限りでは、スペース・ピープルは出現に際して一定のパターンに従っているのでもなければ、この世界の一地域を他よりも好んでいるとも思えません。

**問54 スペース・ピープルは反キリスト的だとは表明していないと、あなたは確信しますか。**

**答** この言葉を理解するには、かつて地球上に住んだ「賢者」たちすべての教えは同一の基本的メッセージを伝えていることを知らねばなりません。そこで、「反キリスト」の本当の意味を分析してみましょう。Anti(反)という言葉は「反する、または対抗する」を意味します。そうすると、私たちが地球人は宗教的信仰、皮膚の色、社会的地位などで差別することによって、キ

リストの教えに反してはいませんか。

これが「他人を裁くな。汝が裁かれなために」というイエスの訓戒に従うことでしょうか。私たちは他人を裁くたびに反キリストになっているのです。

イエスは絶えず人間の兄弟愛を教えました。彼は「汝の隣人ばかりでなく敵をも愛せよ」という新しい概念を私たちにもたらしました。しかし彼の磔刑以来二千年間の戦争と流血の歴史をごらんさない。これは地球人の反キリスト的な生き方の記念碑になっているではありませんか。

反キリストというのは一個人でもなければ集団でもありません。それは一つの原理、すなわち生き方です。各人に自分の心の底を探らせて自問させてみましょう。「私の生活がどれほどキリストの教えに従っているか。キリストの憐れみの法則に従わなかったこと

によって、実際には、いかに反キリストであることか?」と。あなたならばこの質問に正直に答えられるでしょう。私がブラザーズ(友好的な異星人)から学んだ所によりますと、彼らは万物にたいする同情に満ちた理解の法則を知っており、それを生かしています。万物は唯一の創造主の現れであること

はあなた次第です。

## テレパシーに

### 特殊な感覚は必要ない

**問55 テレパシーを用いるのに、特殊な感覚を必要とするのですか。**

**答** いいえ。テレパシーは何かの神秘的な超感覚的知覚作用を通じて受信されるものではありません。それは人間の真の自我に関する徹底的な理解と感覚の反応訓練を通じて来るのです。

テレパシーは普遍的に理解されるもので、自然界の万物によつて応用されています。ところが人間だけは自分のエゴを盲目的に崇拜しますので、創造主から自分を切り離しています。このことは私の著書『テレパシー開発法』(アダムスキー全集第5巻)に詳細に述べてあります。

想念移動は他人からの印象を受けたり、スペース・ピープルとのコンタクトに限るものではありません。本当のテレパシーの受信者にとつては、このいづれも小さなことです。むしろ自分を作り上げている成分、自分の存在の目的、宇宙全体と自分との関係などの理解を探究します。

本人がこれを達成したとき、本人のテレパシックスな受信に制限はなくなりません。そうなると万物のあらゆる面からテレパシーが来るのです。

これには神秘的な第六感や七感などの応用は全く必要ありません。本人が

すでに持っているものの知識を必要とするだけです(注||自分の体内に内蔵されている偉大な力を知ればよい意)。**問56 他の諸惑星の人々は私たちと同じようにペット(注||犬・ネコなどの愛玩動物)を飼っていますか。**

**答** この問題はさほど重要ではありませんので、私はスペース・ピープルと詳細に話し合ったことはありません。しかし彼らのあらゆる生き物にたいする態度の説明からみますと、彼らも私たちと同じようにペットを楽しんでいると私は判断しています。

しかし彼らのペットは「啞の動物」というよりもむしろ家族の一員として、もつと平等に扱われていると確信します。私とスペース・ピープルとの対話はいつても人間とあらゆる生物との相互関係に関する広い概念にもとづいていきますので、これは動物をも含んでいます。

あらゆる生物に公平に流れている生命力の一体性についての彼らの認識のために、私たちが達しているよりももっと深い本当の親密感を他の生物にたいして持っています。

宇宙全体にわたつて創造は同じです。物の進化すなわち純化は宇宙の法則です。私たちの惑星もこの証拠を示しています。かつて地球を歩きまわつた生物の骨の研究から、私たちはこの生物の現代までの進化の跡をたどることができます。変化する自然に順応したの

もあれば、絶滅したのもあります。

しかし常に心にとどめねばならないのは、地球は独特な惑星ではないという事実です。神の大自然は宇宙全体に同じものを表現しているのです。したがって他の惑星群も動物、鳥、爬虫類、昆虫などに恵まれているでしょう。

私たちがこうした動物界との一体性を本当に理解したならば、それとの分離感を持たなくなるでしょう。そう望むのなら、だれでもこのことを立証できます。大切なのは、ただ一つの創造主、一つの至上なる英知があるという点であり、あらゆる生命体はこの唯一の源泉から生命を受けているという点です。

昆虫はこの英知を人間という兄弟と分かち合っているのだという知識をもって語りかけられると、美しく反応を示します。これをバカらしいことだと思いませんか。まじめな探究者ならば、一度試してみれば、こうした生命体とその知性について自分が考えていたよりもはるかに多くの事柄を教えられます。しかし人間の場合と同じように、ひどい言葉、恐怖、短気などを起こせば、満足のゆく結果は出てこないでしょう。

**問57** 多くの人がUFIOの実在と、それが他の惑星から来るものであることを認めたがっているのに、あなたのUFIOとの乗員者と会見した件に関する記述をなぜ信じようとしないのですか。

**答** これは人間の性質の特異性であるように思われます。この人々はUFIOが実在すること、それが知的に操作されていること、着陸の有力な報告が確認されてきたことなどを確認しています。しかし何らかの理由で彼らはスペース・ピープルが地球の住人とコンタクトしているという考え方を尻込みして受け入れないのです。私にはその理由がわかりません。

この状態を論理的に分析してみましよう。地球人は現在自分の力で宇宙旅行をしようと計画しています。計画されている月旅行もきわめて近い将来に可能性があると思われます(注||この質疑応答集は一九五八年四月に出された)。そして地球の科学者は金星と火星へ宇宙船を送ることを話し合っています。

そこで、もし地球人が月かまたは近隣の惑星群へうまく到着したとき、乗員が着陸してその住民とコンタクトしないだろうと考える人はまずいのではないでしょうか。そうすると、別な惑星から来た人々が地球へ着陸してコミュニケーションすることも当然のことだと考えられるでしょう。

スペース・ピープルは地球に滞在中は目立たないようにしており、厳密に地球人の習慣に従っています。というのは、彼らは進歩した人類が宇宙空間で私たちを取り巻いていることを多くの地球人が依然として信じたがらない

事実気づいているからです。彼らスペース・ピープルは、自分たちがコンタクトする相手は嘲笑されることを知っていますが、しかし今世界の人々に真相を伝えることは絶対に必要なのです。『宇宙からの訪問者』に述べましたように、私はスペース・ピープルのメッセージをできるだけ多くの人に伝えるための接点として役立ったにすぎません。

断言しますが、この知識を伝えると確かにひどい目にあうのです。私が直面しなければならなかった疑惑と嘲笑のために、スペース・ピープルと会ったことのある他の人々(他のコンタクティーたち)が自分の体験を語りたがらないことにはたいして私は同情できません。

この大衆の不信そのものが演技とでつちあげのためのドアを広く開いてしまい、さらに多くの混乱にしか通じなかつたというのには皮肉なことです。こうした不断の否定が大衆から真相を隠してしまつたのです。したがって熱心な探究を行っている多くの人が、スペース・ピープルの正常さに関して惑わされてきました。

この同じ疑惑と嘲笑は、政治指導者たちがスペース・ピープルによって与えられてきた真相を隠してしまうのも役立っています。

**問58** 多くのUFIO研究グループについて、あなたの意見はどうですか。グ

ループ間の不和を考えれば、彼らの価値はないように思うのですか——。

**問** UFIOグループのすべては空中現象の情報を絶えず大衆に伝えたことによつて、はかり知れぬほどの貴重な仕事をやってきました。彼らは多くの賞賛を受ける価値があります。多くの場合、彼らの活動は人から感謝されない金のかかる、時間を消費する冒険であったからです。彼らは信じない大衆にUFIO目撃、着陸、コンタクトなどの報告を伝えようとして、困難な戦いをやってきました。報告された着陸とコンタクト事件を確認するために、あらゆる調査をやつたグループのことを私は知っています。そして慎重な調査の結果、インチキが行われたことをあとで発見して、グループはただちにその物語の撤回を発表しました。

私の信ずるところでは、この事件を論議し合つたグループ間に不和が生じたのだと思います。なぜならUFIO目撃類の現象があまりにも強く注目されて、スペース・ピープルが示してくれた進歩した生き方に充分な考慮が払われなかつたからです。

スペース・ピープルが友好的に地球の空中へ出現すること自体が、兄弟愛という宇宙的メッセージを放っているのです。もし彼らが敵だとすれば、すぐれた知識でもつて、とつくの昔に地球を征服できたでしょう。

UFIO研究に「宗教」と「心霊」を

入れてはなりません。というのは、実際、私たちは神秘的なものを扱っているのではなく、基本的自然的な進化の法則を扱っているのです。

これは私の意見ですが、すべてのUFO研究グループは、彼らの目撃調査をスペース・ピープルから与えられた情報のまじめな研究と結びつけられ、不和は解消し、発展的な生き方が彼らの前に広がるでしょう。プラザーズから来るコミュニケーションは「きれいな事」ではなく、私たちの日常生活にたいする、生き甲斐のある、役に立つ規範であるからです。

## 他の惑星の宇宙船の建造材料

問59 宇宙船(他の惑星の円盤や母船)を建造するのにどんな種類の金属が用いられますか。

答 私自身が行った分析をも含めて、他の分析報告類によりますと、主な金属は非常に高純度なアルミニウムであるようです。それは地球で知られている他の多くの金属との合金となっており、さらに地球人には未知の二つの元素が含まれているという結果が出ています。このことは、これらの金属が地球に存在しないという意味ではなく、地球人がまだ確認していないという意味です。科学は、金属にたいする新しい式でもって実験をやりながら、常に新しい発見を行っています。とにかく

宇宙船はこの世のものでないような金属で作られているわけではありません。地球人が把握するのがきわめて困難と思われる一つの真理は、あらゆる惑星は同じ宇宙空間から生まれるという事実です。

天文学者は知っていますが、はかり知れぬ大昔、現在の私たちの太陽系は、活動する渦巻く宇宙の想像もつかぬ大なる「雲」でした。しかし相対的法則によって次第にこの雲の核が凝縮して中心の太陽と十二の惑星を形成したのです。したがってあらゆる惑星が同じ基本的な元素を含んでいることは明白ではありませんか。なぜなら、最後のに固体化して現れた「種子」は、元の雲全体に広がっていたからです。

以上は真実ですが、質量は惑星によって違うでしょう。ちょうど地球の一定の地域に元素類の集中を見るのと同様です。しかし基本的には成分は宇宙全体を通じてみな同じです。あらゆる生命体のこの「種子」は現在に至るまで元の活動状態にあったに違いないと思われまますので、この考え方が思考のための多くの資料を含んでいることを学究の徒は知るようになるでしょう。

## 偉大なマスターの実態

問60 あなたが『宇宙からの訪問者』の中で言及している「マスター(指導者)」というのは、地球の運命をコント

ロールしている(とある種の教えが伝えている)人々と何らかの関連があるのですか。

答 これはある哲学の研究者たちによってあまりにも誤解され、誤って解釈されていますので、私は母船内で会った賢者たちにたいして「マスター」という言葉を用いたことをたびたび後悔しています。

私がかの偉大な教師イエス・キリストの教えに従うとすれば、ご質問のような(心靈的な)「教え」のすべてに同調はできなくなります。私の知るところでは、現代の諸流派の一部によって広く教えられている内容とは関係ないことですが、キリスト的な意識をマスターの位置にまで達成させた人は地球にいません。

宇宙的な知識においていかなる地球人をもはるかに超えている、他の惑星のこの賢人たちに言及して、私はウェプスター辞典の定義どおりに「マスター」という言葉を用いました。引用すると次のとおりです。「何かの職業、芸術または科学で大いに、または完全に熟達した人」

この人々は完全さを否定していません(注||完全な人間は存在しないの意)、彼らの宇宙的法則の理解は私の理解をはるかに超えていますので、当然のことながら私はこの点では彼らもマスターであると考えています。彼らは自分の肉体の働きや想念の力

などの知識を持ち、私たちが見習うことのできないような心の支配力を持っています。彼らは自分の存在の目的、宇宙と自分との関係、宇宙に存在する万物の一体性などを理解しています。このような理解があればこそ、私たちが持つことのできないような謙虚さと同情の心とが起るのです。人間は宇宙的な生き方で成長するにつれて、あらゆる行為の背後にある因を見ることができるようになり、そのときこそ万物にたいする同情の心が発達するからです。

因を見ることができるときのそのような人は、まだ行われていない行為の結果を見通します。すでに青写真が作られているからです。このために本人は知恵をもって論じ、行為が完成する前に解決ができることを願いながら、非個人的にアドバイスできるので(注||未来を予知できるの意)。

私が「マスター」と呼んだあの賢人たちは(異星人のなかで特に偉い人たち)は地球の諸状態について論じ、現在の状態に至った地球人類の歴史を説明しました。この話が行われているあいだに彼らは他の惑星群の人類を例にあげました。その人類は日常生活の基礎としての理解力をもつて、自分たちの文明を平和と幸福のために建設したのです。賢人たちは、この人類の歴史は建設のそれであったと言っています。一方、私たちのそれは破壊でした。

しかし賢人たちの態度には非難や裁きのかけらもありません。この賢人たちはあらゆるスペース・ピープルから寄せられている最大の関心と愛情を一身にあらわしているのです。

もう一度この問題を明らかにしましょう。彼らは正常な、肉体を持つ人間です。いかなる神秘も彼らを包んではいません。彼ら賢人は他の人々と同じように人々にまじって生活行動をしています。私たちの時間の概念に従えば、彼らは大変な高齢者です（注：地球式に換算して八百歳から一千歳ぐらいといわれる）。しかし繰り返ししますが、彼らはいかなる種類のマスターをも自称しません。彼ら賢人たちは他の多くの同胞よりも高度な理解力を持っていることは認めています。いつもつけ加えて語るのは、創造主の法則によつて私たち地球人もみな最終的には彼らの現在の知識を持つまでに成長するだろうということです。一方、彼らはそのときにはもつと高度な理解を持つまでに進歩するでしょう。

あらゆる人間の場合と同様に、やがては彼ら賢人たちも現在の肉体を横たえて、新しい肉体に移るでしょう。私たちはこの推移を「死」と呼んでおり、私たちのほとんどはそれを恐怖で見えています。一方、彼らはそれを一軒の家から別な新しい立派な家に移動するぐらいにしか考えていません。

しかし彼らの現在の肉体の場合と同

様に、彼らの新しい肉体（注：転生して得た新生児の肉体）も物質的なものです。というのは、神なる創造主の生命力が体現できるのは、現象界を通じて、ことにほかならないからです。したがって、人体の必要性を超えて発達することを意味する「熟達」という地球人の概念は、生命の法則にたいする地球人の誤った解釈のもう一つの例にすぎません。

人間の内部に潜在する力を認めることのできない地球人の無力さは、現在のさまざまな教えの誤用の原因となっています。地球人はすでに自分がよく知っている事実を自分の理解力で容易に分類することができないのを恐れており、この「知らないもの」を人間は自分で考え出した「神秘」の分野に分類しています。そして人間はいかに「神秘」を好んでいることでしょう！

古代においては多くの人がこの人間の弱さを利用し、簡単な宇宙的真実を神秘の中に包み込むことによつて、自分を大衆の支配者にしました。時代がくだって、ほとんど知識を持たない別な人たちは、自分たちの個人的な解釈を加えて、ついに真理の核はほとんど失われてしまいました。

しかし宇宙の基本的な諸法則は簡単で、わずかしかなりません。私たちが理解の面で成長するにつれて、その簡単なためにより理解できるようになります（注：右の問60は、地球の

運命を左右する霊的なマスターが存在するといふある心靈的な物語に言及したものと思われる）。

問61 ストレイス氏の書簡に関して、ワシントン市の私の代理人に出した手紙の返事に、国務省にストレイス氏という人物はおらず、今までも存在したことはないと知らせてありました。また文化交流委員会も存在しないという事です。これを説明できますか。

（注：このストレイス書簡事件については本誌92号の「質疑応答」問21に詳述してある）

答 ストレイス氏の書簡を公開する前、私が知らさねばならないと思つていた事柄を「アメリカの大衆」に伝えようと元気づけられた第三パラグラフに関する私の解釈に従つて、私はその書簡の信憑性の徹底的な調査を行いました。その当時私は、ストレイス氏は国務省の職員でありながらも同省のいかなる名簿にも氏名が掲載されていないのだと確信していました。

しかし私がストレイス氏の書簡を公開して以来、明らかにその発信人を押ささえようと行使された圧力のために、この声明は撤回されました。しかし書簡が公開される前、この圧力が行使されなかつたときは、真実が堂々と述べられたのです。

文化交流委員会の存在の否定はおかしなことです。なぜならその委員会が行っている活動は国際的に知られてい

るからです。アメリカの代表者たちが海外への親善旅行のためのビザを取得するのは、この委員会を通じて行うのです。また外国から来る文化的なグループもこの委員会を通じてアメリカ訪問の手配をします。それは名称が意味することを正確にあらわしています。

国家間の文化の交流です。この機関の主目的はあらゆる階層の代表的市民の友好的な交流によつて、世界の民族間の良き理解をもたらしことにあります。文化交流計画は放送や新聞などで広く知られてきました。たとえばイギリスとアメリカの新聞は（他の国がどれぐらい報じたかは知りませんが）ポップ・ホープがロンドンからニューヨークへ帰つた記事を載せていますが、そういうふうにして彼はソ連への最近の訪問にも文化交流委員会を通じてビザを取

得できたのです。私はこの記事の切抜きをファイルしておりますし、フライイング・ソーサー・レビュー誌の一九五八年五月・六月号も、ロンドンタイムズ紙に掲載された同様の報道に言及しています（注：ポップ・ホープはイギリス生まれのアメリカで活躍した有名な喜劇俳優）。

いかなる「計画」といえども、その構成は通常多数の人間の集団によつてなされます。アメリカではこうしたグループを「委員会」と呼ぶ習慣があり、ストレイス氏は文化交流委員会と行動を共にしていたのです。（以下次号）

## ■各地 UFO 写真展

日本GAP各支部主催のUFO写真は今年も次のように華々しく開催される。

## 1 新潟支部主催 UFO 写真展

七月二十四日より二十八日まで五日

間。新潟市の「伊勢丹デパート」六階

「ふれあいのひろば」にて。新潟駅から

徒歩十分。入場無料。同時企画として

デパート側による星座教室も開催。会場

にミニプラネタリウムを設置、投影

2 静岡支部主催第二回 UFO 写真展

八月十四日より十九日まで六日間、

市内伝馬町のデパート「ライブアピタ

静岡」三階「ライブスポット」。

3 松山支部主催第三回 UFO 写真展

八月十四日より十九日まで六日間。

広島県福山市、国鉄福山駅前「天満屋

デパート」八階「シティーギャラリー」

にて。電話〇八四九一二七一二二三。

4 GAP本部主催第三回 UFO 写真展

八月十五日から二十日まで六日間。

国鉄千葉駅構内「ステーションビル」

四階。以上いずれも午前十時より。

## ■今年度海外研修旅行説明会

昭和六十一年度日本GAP企画第八

回海外研修旅行「ギリシャ・トルコ・

ローマ宇宙考古学の旅」は好評募集中心

第二回目の旅行説明会を七月二十日(日)

午後一時から五時まで東京銀座のトラ

ペラー商会二階で開催。この時点で申

し込んでも間に合うので考慮中の方は

出席されたい。トラペラー商会はデパ

ート「プラント」の並び東百メート

ル。電話〇三五一五六一五四六五。旅

行に関する問合せは左記へ。

〒150東京都渋谷区東三二四一九、サ

ンイーストビル二階、ワールドセブン

トラベル株式会社、田中正(宛)

電話〇三一九九九一二四六一。夜間は

〇四七四一七七ー四七二八(田中自宅)

右の田中氏(本部役員)は六月一日

より神奈川県大和市から〒275千葉県習

志野市藤崎六一二〇一二へ移転。

■東京月例会

東京月例会は毎月第二土曜日に上野

公園内の東京文化会館で盛況裡に開催

されているが、本年度は左記の三カ月

に限り開催日を次のように変更。

七月 第三土曜日(十九日)

八月 第一土曜日(二日)

九月 第二土曜日(九日)

九月 第二土曜日(九日)

七、八月共開始時刻と会場は従来ど

おり。詳細は本誌40頁の全国月例研究

会案内欄を参照。

なお東京月例会は過去十七年間久保

田会長が無報酬で指導してきたが、諸

般の事情により七月の東京月例会から

会長の講義指導にたいする受講料とし

て参加者一人千円を加算、会場費五百

円共計千五百円を受付に納入されたい。

地方支部月例会の会費は従来どおり。



▶今年四月の東京月例会。会員の講演は橋本由紀子さん。

## ■六十一年度東京本部総会

今年度GAP総会は九月二十一日(日)

午後一時より五時まで東京銀座七丁

目の「銀座ガスホール」にて盛大に開

催予定。今回は東京月例会連続二百回

達成記念として企画。久保田会長の講

演と、本誌連載中の「私は別な惑星へ

行ってきた!」の春川正一氏の特別講

演が行われる予定。大盛況が予想され

る。詳細は本号31頁の予告を参照。

## ■六十一年度下半年地方支部大会

今年度上半期は三月の松山、四月の

新潟、五月の静岡、長野の各支部が大

会を開催。いずれも大盛況裡に終了。

下半期は次の各支部が大会を開催の

予定。詳細は本号37頁に掲載(カッコ内は、

開催予定地)。

10月19日 大阪支部大会(京都)

10月26日 福岡支部大会(福岡)

11月2日 仙台・山形合同大会(仙台)

11月23日 札幌・旭川合同大会(札幌)

■本誌売れ残り在庫品の活用

本誌の書店卸し売れ残り返品が89号

よりあり、廃棄処分にするのも勿体な

いので、これを知人、病院待合室その

他人の集まる場所に無料で配布しよう

という方に無償で送るので、希望者は

送料千円のみを郵便振替で本部へ送金

して申し込まれたい。冊数と号数の選

択は本部に一任のこと。キズものなの

で売るのは遠慮されたい。

■六十二年度地方支部大会

来年度地方支部大会はすでに左記の

三支部が開催を決定済(カッコ内は、

開催予定地)。

3月22日 松山支部大会(松山市)

5月3日 静岡支部大会(静岡市)

5月24日 新潟支部大会(長岡市)

■GAP幸せカプルの集い

去る六月八日、GAP会員同士で結

婚しているカプル約二十組の内、十組

が集合して、東京駅構内精養軒で「G

AP幸せカプルの集い」を開催。久保

田会長も招待を受けて、約三時間、パ

ーティーが楽しく繰り広げられた。詳

細報告は本号36頁に掲載。今後も時機

# 私は別な惑星へ行ってきました!

## オーラ透視法、過去世透視法、その他の貴重な情報を公開

### 〈連載第二回〉

●本年四月上旬に再度春川正一氏(仮名)と会見した編者(久保田)は、またも長時間にわたって驚異的な素晴らしい話を聞くことができた。場所は東海地方のある中市の閑静な町はずれにある氏の自宅である。スペース・ピープルの大母船に乗せられて水星と金星を訪れた氏の話は佳境にはいる。

### 円盤は波動のよい場所へ着陸する

最初に氏は大母船の写真を数枚見せてくれた。これは昭和五十八年に氏が円盤に乗せられて、さらに大母船に乗り移り、北陸のある大都市付近の山中に円盤を着陸してから、上空の雲の上に輝いている母船を撮影したもので、雲がかぶさっているために船体の輪郭は明瞭に写っておらず、ボーツとした細長い光の棒になっている。写真。全長約一キロメートルもある巨大なものだという。

この大母船の中で氏はスペース・ピープルから地球の政治的な問題について聞かされたが、それは口止めされて

いるので話せない、申し訳なさそうな顔をして断りながら話をすすめた。

「このときから、どんな人とも会おうと思えば不思議に会えるようになりましたね。ひよんな縁で人づてに会えるようになるんです。かなり重要な地位の人に会って、宇宙人から伝えられたメッセージ的な事を、うまく口頭で相手に告げられるようになったんです。そのあたりをコーディネートする」と

私たちは別な惑星から来た人々をスペース・ピープルと呼んでいるが、春川氏はよく「宇宙人」と言う。そのものずばりだ。

「ここで、こんな人間に会えば、次に別な場所のこんな人間とつながりができ

て、その人と話すようになる、といった関係を、あらかじめ宇宙人は読み取っているんです。これはすくく不思議です。やはり予知能力によるのでしよう。公園のベンチで話しかけてきた人とのつながりで、政府の要人にまで縁がつながっていったこともあります」

ここで氏は別な写真を持ち出した。「ここはよく円盤が着陸した場所です。かなりの渓谷でしょう」

見ると、深山の急斜面が写してある。よほどの山奥らしい。

「ここに大きな石があるでしょう。これらの石は古代に加工された岩なんです。自然の石ではないんです。五メートル近くもあるこんな岩が山全体に二百個近くもあります。一種のストーン

サークルみたいになっっているんです。ここは地上的な波動を全部シャットアウトしてあるんです。

そういう場所が国内にいくつかありまして、そこへ円盤がうまいこと降りてくるんです」

——そんな場所でない円盤が降りられないのですか。

「円盤というのは、降りようと思えばどこでも降りられるはずなんです。地球人とコンタクトするということになれば、そんな場所がいいのでしようね。つまり接触する側の地球人がベストな状態になり、潜在意識まで開かれて、非常に良い感じでもって円盤を迎え入れる場所を、彼ら(スペース・ピープル)が設定してくれるわけです。



▶春川正一氏が北陸地方のある都市の郊外に円盤で降りたあと撮影した大母船。雲でおおわれているため輪郭は鮮明ではないが、細長い船体が白く光っているのがわかる。原写真がカラ。

この写真に見える石のほとんどが花崗岩質の結晶の大きな石です。こうした石は独特な波動を放っているのだらうと思います。そうした場所の設定まで彼らは気を使うわけです。

### コンタクトはハードな仕事

——スペース・ピープルとのレギュラーのコンタクティ（接触する人）になるには、どうしてもテレパシーやオーラ透視などのいわゆる超能力を持つ必要がありますか。

「そうですね、行者の行末は哀れという言葉がありますが、テレパシー能力の持主は往々にして失敗するケースもありますから注意を要します。

いまこんなに波動の粗い地球に住んでいる地球人が、あまりにもテレパシー能力が開放されすぎますと、本人自身にかかってくる負担が非常に大きくなります。ですから私は別なコンタクティの何人かに会いましたが、日常生活ができなくて困るとこぼしていましたね。つまり、テレパシーの素晴らしい能力を持つようになるには、ものすごい血みどろの体験を経ることが多いのです。いったんそれを超えると心の奥底まで神聖化されて、すぐく落ちていた人間になりますけどね。しかしいわゆる超能力者といわれる人のなかには自動車事故、薬物中毒、自殺、病気などで死ぬ人もかなりいますから

ね。

それでテレパシー開発には日常生活に支障のない、負担にならないようなかたちで開発することの可能な方程式みたいなものが存在すると思うんです。その方程式こそアダムスキーの『テレパシー開発法』に述べられている方法なのだろうが、編者は黙って聞いていた。

「二〇五、六年、私はその研究に取り組みまして、古神道、カバラ（注）ユダヤ教神秘主義の一種）、原始キリスト教、ゾロアスター教、道教などを掘ってみて、非常にミステイックとして温存されてきたものを調べたんです。宇宙人からも協力を頂きました。それである程度のパターンはわかってきたんです。

ところが重要なポイントがあります。テレパシーを開発することは簡単なのですが、いかにして高性能なスイッチを心の中に設けるかが大切なのです。大体、テレパシーの能力が強すぎるとスイッチがバカになります。そうすると本人は精神的にもたなくなるんです。近代で出たいろいろな理論のなかではマーフィーの理論が優秀ではないかと思えます。

大体スペース・ピープルとコンタクトする人と、コンタクトしないのでやっけてゆく人と、いろいろありますが、いづれにしても人間には役割があると思うんです。だから、宇宙人とコンタクト

トするというのとは一つの仕事だと思っんです。しかもかなりハードな仕事ですよ。そして精神的にも葛藤が起り始めます。というのは、むこうの世界（偉大な文明を持つ別な惑星）は、あまりにも素晴らしいものですから、地球へ帰ってきたあとに感じるむなしさは大変なものです。

彼らはそれがわかるものですから、『あなたは地上で暮らすのだから頑張るなさい』と激励して下さるのですが、なかなか大変なのです。せつかくコンタクトして母船にまで乗せられながら、それだけでだめになってしまう人もいますよ」

コンタクティになって円盤や母船に乗せてもらえれば、さぞいいだろうなあと思っている人たちにたいする警告だ。

### テレパシー開発の秘訣

「超能力の話に返りましょう。実際にオーラが見えるとか過去世の記憶をさかのぼれるタイプの人は、ある意味では動物的な本能が強いんです。それでひとつ間違ふと内的な理性が崩壊しがちになります。ですからそういうタイプの人はある程度人間関係に護られなさいといけません。

これはコンタクトマンにしてもそうです。ですからコンタクトマン同士で集団活動をする例もありますが、そ

それはやはりコンタクトマン自身の問題でもあるのです。

私からみれば、コンタクトの体験をする人は疑い深い人だと思えますね。宇宙人はそのことを私に強く言ってくれまして、『あなたもたぶんここまで見なければ信じなかつたでしょう』と言っています。『だからわれわれはあなたに（円盤や母船を）見せる必要があつたのです』とも言っていました。

しかしテレパシーなどの力を開発するということは人間にとつて必要なことです。

超能力というのは、良い感情とか非常に安定した感情を長く使い続けることによって必要なだけの超能力はだれでも得ることが出来ます。ですからどんな事でもそうですが、もの考え方というのは必ずプラスとマイナスの両面がありますから、なるべくマイナスの考え方を起さない思考パターンをつくるのが大切です」

ここでプラスの考え方というのは、『必ずうまくゆく』という明るい建設的な考え方で、マイナスはその逆の悲観的な考え方を意味する。

「他人を批判する場合もそうです。その人のマイナス面を避けて、プラスの面を見るように努力してゆくと、感情が安定して超能力が少しずつ開発されてきます。急激にドカンと出てくるのではなく、コントロールされながら少しずつ開発されるのですが、これがよ

いのです」

——テレパシー開発について、これだという秘訣のようなものがありますか。

「ああ、それなら良い方法があります。それは楽しい雰囲気をつくることです。これがすごく大切なのです。その楽しい雰囲気をつくるにはどんな方法でもいいんです。みんなで歌をうたつてもいいでしょう。とにかくみんな楽しんで事をするんだという連帯意識をつくり出してから練習を始めると、能力の発現が早いです」

このこともアダムスキーの『テレパシー開発法』の中で述べてあるのだが、春川氏はそれを証明したことになる。

### オーラ透視力開発法

——オーラ透視能力の開発法についてはどうですか。

「オーラ透視についてはいくつかの方法があります。まず一番目として、これはあまり人にすすめられないのですが、毎朝東から昇ってくる太陽を直視するんです。ギラギラ輝く太陽を直視する訓練を続けますと、毎日やっていたら一カ月ぐらいでオーラ透視能力が出てきますね。この太陽直視が能力を最も強く出す方法です。

ただしこれは極端に視力の低下を招きますので危険ですから人にはすすめられません。大体にオーラの見える人は視力障害のある方が多いんです。し

たがって代償的に肉体に欠損部分が生じますから、そのところをバランスをとりながら開発練習を続けることが非常に重要です。特にオーラの場合は——。

ですから太陽のかわりにきつかけのなものを準備してもよいのです。昔から使われる水晶玉を見つめて、その凝視訓練をやるのも一つの方法です。その水晶玉の中に自分が本来持っている波動的なものやオーラの的なものビジョンが出てくるという技法があります。

この場合、水晶玉を見つめるとスイッチが入るという定義づけを自分の中につくるのです。のべつまくなしにオーラが見えるという状態になると、かなり視力的に落ちてきますから、能力を出したり引つ込めたりするスイッチが必要なのです。

私の場合は超能力的なものが最初は目に出てきました。ですから壁に青い光が見えたりして、これは一体何だろうかと首をひねつたものでした。そして目が悪くなつてきたものだから、スイッチを入れたり切つたりのトレーニングもやりました。したがって普通の人は逆の過程をたどつたわけですから、そういうわけで、何かのきつかけを準備するとよいのです。たとえば白い紙を壁に貼っておきます。極端に色のついたものは避けるようにします。

これを一日に十五分程度見つめるのです。そして毎日続けます。最初は意

識の中に眠っているものがその白い紙に見えたりすることがありますが、それは気にしないで、すべて流してしまします。不思議なビジョンが見える場合もありますけれど、気にせず、凝視トレーニングを続けます。白い紙といつても真つ白でなしに、少しクリームがかつたような紙、またはそのような色の壁にむかつて凝視訓練をやりま

す。これを約一カ月続けてから、今度は見つめる対象を狭くして、紙に黒または金色で円を描きます。金色のほうが強い印象を与えるのでいいでしょう。そしてその円の中だけに意識を集中して凝視をします。何かの映像を見ようとするのではなく、ただ見つめるだけです。

これを一週間ほど続けてから、目をつぶると金色の輪が鮮明に浮かんでくるようになります。つまり紙に描かれた形あるものが心の中に移行されるわけです。

そこで今度は目をつぶつたままで、その金色の輪の中に、自分の楽しかったときの思い出とか、過去において非常に鮮明に覚えていた物事、またはきれいな花とか人の顔とかを思い浮かべます。そしてそれが鮮明になつてきた頃に少しずつオーラの透視能力が出てくるのです。

### 過去世透視法

過去世を透視する場合も、目をつぶったままでその金色の輪の中に自分の過去世が見たいという願望の想念を起こします。この想念は五分か十分程度にしておいて、そのあとは無念無想の状態で金色の輪の中を目をつぶったままで見ているのです。

すると最初は断片的にチラッチラッと見えるのですが、やがて次第にちゃんとした映画の画面みたいに過去世の光景が見えるようになります。私の場合は練習を始めてから一週間で過去世が見えるようになりましたが、普通の人は一カ月ぐらいかかるかもしれません。

見たい、見たいという衝動だけで練習をしていますと、それでも能力は出てきますが、その能力自体を制御する力もインプットしておく必要があります。そうしないと能力の出しっぱなしでは火山の噴火みたいに収拾のつかない状態になることがあります。そうすると半狂乱の状態になるわけです。

その半狂乱の状態をうまく乗り越えようと、今度は本物の素晴らしい超能力者になります。そんな人もいるのです。しかしこれは危険ですから、やはり理性で制御された方法が最もよいでしょう。

とにかく超能力の開発は良い感情で練習ができる環境を設定することが大切です。それと家庭内の状態にも大きく左右されます。家庭が平穩無事で、

なんとかうまくいっているという程度ならよいのですが、家庭内が乱れて不安があって、家に帰るとプレッシャーを感じるというのでは、能力開発は不可能です。本人の人格形成にもよくないですね。ですから超能力開発には家庭環境を考えながらやってみるのも一つの重要なポイントですね。

## バランスのとれた食事が大切

それと食物の問題もあります。よく肉食と肉食の問題が出てきますが、たしかに肉食中心でやってゆけばテレパシクな能力は強くなります。しかし逆にテレパシーを制御する理性的な力をもつには、ある程度の動物性タンパクが必ず必要になってきます。

しかしこれは個人の体質にもよるのでして、繊維質のものを多く摂取するほうがよい人もいるのですが、割合的に言いますと、動物性タンパクの食物を一品と、あとの四品は性質の違った食品を食卓に用意するとよいのです。これが最もバランスのとれた食事のようです。

地球人は一日に三回は定期的に食事をとらないといけないと聞いています。私も忙しいときは食べなかつたりしますが、あまり不規則な食事をすると能力が落ちますね。一日に二食の人は少量にして三回にあらためるほうがいいでしょう。私はタバコも吸いますよ。

以前ヨガの人たちが私の家へ遊びに来たことがあります。その人たちはみな菜食主義者です。それで私が食事どきに肉をパクついていますと、その人たちが妙な顔をして見ているんです。しかし動物の肉を人間が自分の体の中で生かしてゆくのが自然の周期ですから、動物の肉を食べることが罪になるわけではないと思います。やはりバランスのとれた食事をすることが必要ですね。精神主義者のなかには菜食でない超能力が出ないと考える人が多いいんですが、そういうわけではないんです。

ここで編者はアダムスキーの質疑応答集の中にあつたスペース・ピープルの食事について話を出した。彼らはアメリカ人が肉を食べると同じぐらいの割合で魚をよく食べるという部分だ。「ああ、そうですね。魚はいいですね。牛やブタなどの肉を食べると、最後の処置の仕方によって、すごく波動を感じる点があります。魚はその点、食べるのが楽ですね」

——アルコール類についてはどうですか。体によくないですか。

「いやいや、アルコールのある種の物は彼ら（スペース・ピープル）も高く評価していますよ。私が聞いたところによりですと、カクテルによく使われる洋酒でカンパリというのがあります（注）赤色のイタリア産果実酒。オレンジの皮を原料にする）これは体に良

いといつて非常に高く評価してました。日本酒はあまり良くないのだそうで、ビールは適量であれば非常に良いと言っていました。とにかく地球人の常識でも飲みすぎる量はわかってるのだから、みずからの常識に従いなさいと言われたことがあります。

とにかく彼らの話では、アルコールというものがひどく悪いものだという感じはありませんでした。私はお酒はあまり飲めないんです。どちらかといえますと、宇宙人が私にお酒をすすめるようなこともありましたが。私は低血圧なものですから少しはお酒を飲むほうがいらしいんです」

## スペース・ピープルのすこいテレパシー

ここで東海地方のある都市に住んでいるスペース・ピープルの実態に関する話題に変わった。春川氏によると、その都市には結構多くのスペース・ピープルが住んでいて、さまざまな職業についているという。

しかし別な惑星からやってきて、地球人のあいだに混ざりながら一時的にせよ一定の職業につくとすれば、それなりの書類が必要になってくる。履歴書はどんなにでも書けるが、戸籍簿本やその他の公文書類はどのようにして入手するのだろうか。

春川氏は明快に説明した。「どういう方法で職につくのかは私に

もわかりません。彼らなりのテクニクがあるのでしょうか、そういうことは教えてくれません。しかし彼らのすごいテレビシュー能力を応用すれば可能ではないでしょうか。

むかしソ連にメッシングという超能力者がいましたね。その人はスターリンだったか、『スイス銀行へ行つて何万フランかおろしてこい。そうしたらおまえの超能力を信じてやる』といわれて、ノートの切れ端を銀行員に見せて、それを小切手だと思わせるテレビシクな技術を応用し、実際にお金を受け取って、スターリンの官邸へ行つたわけです。そのとき『自分は国務長官のペリアだ』と強烈に信じ込んで入口へ近づくと衛兵たちがみな敬礼するわけです。ペリアにしか見えないのです。そこでメッシングは官邸内へ入つてスターリンの前に金を置いたところ、スターリンは大いに驚いて、それ以来ソ連で興行することを許可したという話があります。

地球人でさえもその程度のことかやれるのですから、彼ら（スペース・ピープル）なら朝飯（あさめし）の前の前ぐらいじゃないでしょうか。あるいはテレビシクな技術によつて、本物の公文書を手することは簡単でしょうね」と言つて春川氏は笑う。偽造までする必要はないようです。

アダムスキーも偽造までではないという意味のことを述べている。つまり

最初は履歴書だけで雇われてから次第に信用を獲得していつて、銀行口座を持ち、次々と身分証明書類を入手するというのだ。職場によつては履歴書はなくても雇う所があるから、さほど困難でもないのだろう。

### お金をも愛しなさい

——むこうの惑星ではお金というものが存在しないということですが、地球へ来て働きながらお金を扱えば感覚が狂つてくるのではありませんか。

「いえ、彼らはテレビシクに客観的に見ながら操作しているんです。地球に住む彼らもお金は一応持っています。持つているんですが、とにかく客観的に見ていますね。あつたらかんとしてはいますよ。もちろんお金に対する欲望はないんです。

彼らが言っていましたね。『お金というものは元を正せば樹木からできるんです（注）紙の原料は植物の繊維から得るパルプであるの意。人間は樹木を愛するでしょう。お金だつて愛してあげなさいよ』と。これを聞いて金ヅチで頭をたたかれたような感じがしましたね」

春川氏は愉快に笑う。前号にも述べたように氏の話しぶりはきわめて柔らかく、しかもハキハキとした明晰な説明が続く。言葉を選びながらボソボソと話すようなタイプではない。聞いて

いると非常に爽やかに響いて心地よい。かなりな雄弁家だという感じがする。——そうすると、万物を愛せよということなのでしょうね。

「ええ、そういうことでしょうね」

とかく精神主義者は金というものを蔑視（あざむ）するか無関心をよそおつたりしがちだが、欲望の対象としてではなく、元は樹木という生きものから作られた宇宙の創造物として大切にすべきだと異星人が論じたのである。こうなればチリ紙一枚といえども大切に扱わねばならないことになる。そこまで高次元な愛の精神を持つということなのでしょう。

### UFO写真展は有益

——いま私たちの日本GAPはあちこちでUFO写真展をやっていますね、これは良いことでしょうか。

「ええ、大変良いことだと思います。大體、写真というものには深い意味があります。ある一つのUFO写真があるとして、それをだれかが見た場合、本人は心の中でUFOの形を描くわけです。その想念を起こすわけです。すると本人の想念と実際のUFOとのあいだにつながりが生じます。

つまり今までに本物のUFOを見たことのない人とスペース・ピープルとのあいだに意識的なレベルでラインができて、つながりが生じるのです。

写真というのはその意味で非常に有効な力を発揮します。ですからアダムスキーのUFO写真類にしても、現段階の科学レベルでは全く認められないいわば何の価値のないものとされていきますが、あの写真を見る人たちと宇宙人たちとのあいだにやはりラインがつながりますから、その意味でアダムスキーは沢山の写真を撮つたのだろうと思ふんです」

——でもアダムスキーの写真を見る人がすべて本物だと信ずるわけではなく、なかにはインチキだとか模型を写したのだろうなどと考える人もあると思いますが、そうした低劣な想念波動も宇宙人の方へ行くものではありませんか。

「ええ、それは全部行くでしょう。だからよくある例ですが、UFOが出現したので写真を撮ろうとしたら突然消えたという話がありますが、それもこの問題がからんでいると思ふんです。つまりUFO側が警戒しているんです。

でも彼らが自発的に撮影させているUFO写真を人々に見せることは非常に有意義だと思いますね。それによつて意識的に彼らとつながりができまして、彼らからも何らかの影響を受けて育つてゆく人がきつと出てくるでしょう。ですからUFO写真展というのは非常に理想的だと思いますね。

とにかく本物のUFO（円盤や母船）は空間のどこかに存在しているはずですから、悪い想念を送る人ばかりでな

しに、感動して良き想念を送る人もあれば、その想念も届くでしょう。プラザーズは非常に寛大ですから、悪い想念を受けても別に何とも思わないでしょうね。とにかく彼らが許可して撮影させた写真ならば大いに人に見せてあげるほうがよいと思います。

私は一度円盤に乗り込むときにこそりビデオカメラを持ち込もうとしたことがありますが、だめでしたね。彼らはすぐに見抜いてしまふんです。一度はカセットテレコを持ち込んだのですが、このとき彼らはわかっていたようですが何も言いませんでした。しかしあとで家に帰って再生してみたら、ポアンポアンという振動音が入っているだけでした。ものすごく大きな音でしたね。船内の磁気の影響でしょうね。万年筆を持って入ってもインクがだめになります。インクの成分が分離した状態になるんです。ボールペンもおかしくなったことがありますね。筆記具としてはエンピツがいいんです。

時計もだめになります。一時期はデジタルの時計を持っていましたが、このデジタルはテレバシーで連絡をしているときに、その段階でもうおかしくなりまししたね。大体自分のオーラがすごく強く出るときは時計類がだめになりますし、金属製品も欠けたり突然はじけたように変化して壊れたことがいろいろありました。カフスボタンなどもポロツと落ちたりしたもんです。あ

れはユリ・ゲラーの超能力と同じ現象なのでしよう」

とすると、春川氏も相当なパワーを持つ超能力者のだろう。

### ユリ・ゲラーは本物

ここでユリ・ゲラーの話になった。あれは本物だと思いが、あなたは？と尋ねると、氏は即座に答えた。

「あの超能力は本物ですよ。でも今はいろいろと個人的な問題があるようですね。今度また企業家の招きで来日するそうですよ。彼ぐらいのクラスになりますと欲望でもうまく使えますからね。そこでどれだけ自分を冷静に見てゆけるか理性が勝つか力が勝つかの問題がありますね。下手をすると彼も自分の力でつぶされるかもしれません。彼自身との闘いがあるでしょうからね。でも超能力自体は本物ですよ。あの人の目を見るとわかるんです。超能力的な人の目は独特です。特に念力によって物理作用を起こせる人のタイプは目を見るとすごくよくわかります。宇宙人もそのような目付きになることがたまにあります。ほんの一瞬ですけどね。目から力が出ているようですね。あるときユリ・ゲラーのオーラを見ていましたら、目からビューツとビームが飛ぶのが見えたことがあります。だから想念の力を一定方向に集中させるような独特な力があるのでしようね。

それに触れると物質の分子のつながりが甘くなつてポロツと崩れるのでしよう。彼はガラスの柄さえ曲げたと言きましたからね」

### 宇宙的な地球人もいる

ここで話題を変えた。かねてから国内のある土地で働いている従業員のなかに宇宙人がいるという噂があつた。しかし編者(久保田)のささやかなテレパシク・フィーリングではピンとこなかつたし、本物ではないという別な情報もあつたりして関心はなかつたのだが、念のために聞いてみた。

「地球人として生まれていても宇宙的なエネルギーを持つている人がたまにいます。先祖が宇宙人とつながりがあるのかもしれない。そのような人は宇宙的な波動を出すんです。すると、この方面に関心のある人はなんとなく感応して、あ、あれは宇宙人ではないかと思つて引かれるわけです。人間関係においても、初めて会った人なのに急に引かれるという例がありますが、あのタイプの人でしようね。

私自身もその土地へ二度ほど行ったことがあります。あそこはいろいろ興味深い波動を発生する場所ですけど、その人たちはスペース・ピープルではないと思いますね」

一体に春川氏は、否定するときに強い調子で「それは違う」とか「そんな

ことはない」と断定的な調子で言わない。どちらかというところ、意見が違うので申訳ないがというような表情を浮かべながら、やんわりと否定するのである。絶対に人を悪く思わないという氏の高潔な人格が反映しているのだろう。つまり万人をプラスの面で見、マイナスを避けようとする意欲が明確に見られるのだ。

ところで編者自身も何度か前記の噂を聞いたときも否定的発言はしなかつた。信じている人たちを失望させたくなかつたからだ。

ここで読者に極力お願いしたいのは、自分のフィーリングでだれかをスペース・ピープルだと思ひ込んで、あとで本物でないことがわかって、絶対に失望してはいけないということである。決してあきらめないで、いつか必ず本物のスペース・ピープルに会えるのだという強烈な信念を持ち、そのようなイメージを描き続けるならば、いずれ実現するかもしれないのだ。

### 日本民族のカルマ

——アダムスキーによれば、日本民族は特殊なカルマを持っていると言っているんです。これはどういう意味だとお考えですか。

「えつ、アダムスキーはそんなことを言っているんですか。そうですか——」春川氏は意味ありげな微笑を浮かべ

て話を続けた。

「これはたぶんイスラエルの失われた十二支族のことだろうと思います。私は以前仲間と一緒に日本人のルーツを追跡したことがあります。そして結局、ルシャまで行くんです。そして結局、例の失われた十二支族のラインの一本を背負っているようですね。これはもう間違いないと思いますよ」

——イスラエル人(ユダヤ人)というのは、遠い大昔に別な惑星から来た民族ですか。

「ええ、十二という数字がありますからね。いろいろな意味があると思いますね。だからユダヤ人というよりもその民族性を超越した魂の流れというか、何か原型があるんじゃないかと思いませんね。その中から何かの秘められたものがきていて、世界史上ではさまざまの民族が役割を果たしていますけれど、日本民族はまだ出番がまわってこないんです」

ここで氏は未来に関して非常に重要な発言をした。そして日本人がいざ世界にある役割を果たす時代が来るだろうと言う。これは現代においてユダヤ人が果たしている役割やフリーメーソンなどの活動にとつてかわるほどのものらしい。

「しかし私は気長に考えています。われわれの子孫が百年後にどれだけ奮えているだろうか、千年後にはどうなっているか、そういうビジョンで見えてゆ

きたいと思っています」

ここで氏はアダムスキーが一九五二年十一月二十日にデザートセンターで金星人と会見したときの六名の目撃証人の一人、ジョージ・ハント・ウイリアムソンの話を持ち出した。彼は金星人の足跡の図形の解釈で心霊的な方向に走って心霊的な書物を書き、これがもとでアダムスキーから離別したのだが、別な書物で述べた彼の古代史観はスペース・ピープルも高く評価しているという。春川氏は心霊問題についても該博な知識を披露するので驚くほかはない。ぼう大な量の書物を読んでいるらしい。ただし心霊を肯定しているわけではない。

### 創造主の存在を認めよう

——アダムスキーは宇宙の意識というもの<sup>を</sup>を非常に強く言っています。これは万物を生かす創造主の英知、パワーともいうべきもので、特に人間は自分の心を内部の意識と一体化させなければいけないというわけです。

「たしかにそのとおりだと思います。私はどんな人間でも「神」を持つべきだと思えます。創造主というべきものを——。それをどのように名づけて呼ぼうとかまわらないのですが、要は各個人が神様の姿をどのように設定するかによつて、その人の人生がきまってくるんです。それが非常に重要だと思

いますね。

自分の精神で想像し得る最高の姿が神だと思えます。ですから人間は神をどれだけ描き得るかによつてランクづけがきまってくると思います。

どんなに人間がふんぞり返つて想念を起こそうとも、その上に存在するのが神だと思えます。そして人間はその神にどこまで近づけるかで向上の証<sup>あかし</sup>が出てくるでしょうね。

だから常に自分の中に想像し得る神を偉大なものとして、強大なものとしておいておくべきですね、人間は。ですから人間はさまざまの想念を起こしますが、まずなんといっても最高の存在としての神を想念すべきでしょうね。徹底的にです。できるだけ強くイメージする必要がありますね。

これは最も重要なことですが、この観念をひとつ踏み間違えるとメチャクチャなことになってきます。これに関してはマーフィーが非常に良いことを言っています。たしか「名言集」の続編だったかな、チラツと読んだのですが、びつくりしましたね。とにかく最大に神を信じよという意味のことが書いてありましたものね。自分の創造主である最も偉大な神を信じよと書いてあるんです。わーっと思えましたね。

自分の意識の中の最高の世界は神だと思えます。その最高の世界のレベルを一般の人は見落としているわけです。

すごく低い所に設定しているんですよ。それは中心の創造主から見たら、たぶん悲しいことでしょうね。

以前に宇宙人がこういうふうと言ったことがあります。「主から見れば、主の目にもかからないものが多いだろう」と。つまり地球人のなかには主の目にもかからないものが沢山あるのではないかとこのことなのです。だからやはりわれわれが(スペース・ピープルが)おもむくことになるというわけです。せめてわれわれが持っている主の姿だけでも知ってほしいと言っていました(注||ここで主<sup>しゅ</sup>というのは宇宙の創造主の意)。

しかし彼らはときどき面白いことを言うんです。そうやって地球へ来ているのも、われわれのこだわりではないかと言っています。ひとつのこだわりなのかもしれないが、われわれは言うに言えない気持ちから地球へ来ているのだということでした。宇宙の法的的の言え、彼らは地球へ救援に来てはいけないのかもしれないが、これは本当に心情的なヒューマニスティックな気持ちで地球へ来て下さるのだと思えます。ですから結局は一人一人が努力しなくてははいけないでしょうね。

コンタクトマンですら創造主を意識している人は少ないですよ。彼らからいろいろな理念を教わっても、彼らは比喩的な説明をすることが多いものですから、やはり勉強をする必要がある

んです。教祖様におさまってはだめなんです。

常にいろいろな文献を読んだり経典を読んだりして、その中に彼らと共通する部分を追いかけてゆく必要があります。私の場合は人一倍疑い深かったのが逆によかったと思います。それによつてずいぶん多くの文献を読みましたから、そのために判断のきつかけが与えられましたですね」

やはり氏は多読して勉強を続けてきたのだ。氏の該博な知識も個人的努力の成果なのだろう。アダムスキーも博覧強記だったと故アリス・ウェルズ女史が言っていたが、それなりの学習をやつたのだろう。

——そうすると地球にはずいぶん有益な文献が多いわけですね。

「ええ、かなりいい本がありますよ。それで私などは、こんな本が読みたいなこういう本は手に入らないかなと思つて古本屋へふらつと立ち寄りますと、必ずそれがあるんです。ですから今までかなりの文献を手に入れましたし、面白いものが多かつたですよ」

### 地軸の傾きは人類の想念の現れ

——話は変わりますが、アダムスキーは地軸すなわち地球の自転軸の傾きが生じつつあるという意味のことを言っています、これは本当でしょうね。

「はい、これはやはり危惧すべき問題で

す。自転軸というのは地球人全体の想念のバロメーターみたいなものなんです。地球の全生命がどれだけバランスをとつて生というものをまっとうしているかということが自転軸に出てくるんです。だから単純に物理学的にとらえるだけでは読みがそれてしまいます。

ですから地軸が傾いているということは、それだけ想念のパターンをくずしていることになりす。したがつて地球上で何がそれをくずしているかといえ、それは人間だということになります」

——そうすると地球人全体の想念が狂つているために自転軸も狂つてくるというわけですね。

「まったくそのとおりです。アダムスキーも彼の書物の中では重要なポイントを全部示していますよ。ですから自転軸が正常になつたときは地球人の波動が良い状態になつてくるべきです。そうすると、このパターンでゆけばよいのだなということがわかるはずですよ。

ですが、今は非常に危険な状態です。しかし私は非常に危険だということを認識した上でプラスに考えたいですね。今までの人々は何かの自然現象を危険だ危険だと言いつつ、それじゃどうすればいいかという、わからないままに終わります。

要は一人一人の想念パターンを変へることですね。一人一人がプラスの想念を起こして、いや大丈夫だ、地球の

自転軸が傾きかけているのなら、もつとすごいことをやつてやろう、もつと和合の気持を起こして、自分の身近な生活をよくしてやろう、家庭の雰囲気をよくしてやろう、友達関係をよくしてやろう、GAPの集まりをよくしてやろう、というふうな心の転換を図ればよいのです。

よく街頭で世界平和を訴えるピラをくばっている人たちがいますが、しかしその人たちのセクト同士が対立していますからね。そんな人々にはピラをくばつてもらいたくないですね。なぜならそのピラにはくばる人の想念が焼きつけられているからです。ですから世の中にはちぐはぐなことがずいぶん多いですね。こんなことも、ほんのちよつとした考え方の間違いから起つているんですがね。これがむつかしいところですよ」

### 日本人のすごい精神的影響力

「しかし今の若い人は他人を非難する気持が強いですね。五年ぐらい前から特にそうです。ちよつと他人から傷つけられると、すぐに相手を責めるんです。非難攻撃するわけです。自分の悪い点を指摘されると、逆に相手に食つてかかるんです。

ところが何かの欠点を指摘されるということはそれなりの原因があるからで、何も欠点がないのに理不尽に責め

られるはずはありません。かりに理由もなく他人から非難されても、もし自分の心の中に怒りの感情が出てきたら、常に自分でその怒りにたいして『やめろ！』と中止命令を発しないだめなんです。怒りや非難の想念というのがいちばん悪いんです。これが根絶されない限り世界から戦争はなくなるらないでしょう。

戦争というのは国同士が悪いのではなく、また政策が悪いのではなく、地球人一人一人の想念が結集して、そのバロメーターが戦争という形であられるんです。新聞などに他国の戦争のニュースが載つたりしますと、だれしも他人事のように読みますが、実は読む人の一人一人の想念がその戦争と関連しています。だからそんな記事を読むときこそ、一人一人が和合の気持を持つようにしないとイケないんです。

宇宙人から聞いたことなのですが、日本人の約十パーセント近くの人が人間の幸せについて心底から真剣に考え行動すれば、世界中から戦争がなくなるという事です。世界の総人口の十パーセント弱ではなく、日本人だけの十パーセント弱ですよ。日本人というのはいかにその精神的な影響力を持つているのださうですよ」

——そうすると日本人はよほど特殊な民族なのですね。  
「つまり日本人は物事を変革する力があるんです。たとえば現在日本は貿易

の加工国として世界一だといえますね。私は音楽の楽器の古代史の研究に凝ったことがあります。たとえば日本には昔から琴という楽器がありますが、この源流は南方のビルマとかタイあたりになります。ところがあつちのほうにある源流の楽器はすごく単純で、木のツルを三本張った程度で、楽器といえるようなものではないんです。

ところがそれが日本に入ってくる素晴らしい音色を出す琴に変わるわけです。これはすごい技術です。三味線にしてもそうですよ。これは日本人の変革させる技術だと思えますね。良い方向に変革させる技術です。

その変革のカギを日本人は心の中に持っているのではないかと思うんです。ですから日本人がそのことに気づいて世界平和のために前向きに信じてゆくという姿勢を保つなら、それだけで世界は大きく変わるでしょうね。私はそれを確信しています。十人でも二十人でもいいからこの理念を教えたいですね。

——そういう世界平和の想念を十パーセント弱の日本人が起こすような一大運動を起こすといいでしょね。むづかしいことかもしれません。

「それについては×××××がやっています、うまくゆかなかつたようですね。それにひびく心霊的ですからね。優秀な人は多かつたんですが、その団体の教祖の人がどこかでひっかかつて

おかしくなつたんですね。でも近代の宗教家のなかでは珍しく人格者だつたと聞いています」

春川氏は宗教団体を決して悪くは言わない。それはそれなりの役割があつたのだらうと言ひ、むしろ教祖を称えるような話をするが、心霊の応用だけは肯定できないと言う。

### 重要な岐路になる今世紀末

——今世紀末に大変動があるような予言をしているノストラダムスについてはどうですか。あの予言を解説した本の筆者が自分なりの解釈をしているのかもしれないが——。

「ノストラダムスは偉大な人だつたと思います。ただしあれは裏があるような気がします。ノストラダムスというのとはともフリーメーソンの系統です。だからね。ときどきフリーメーソンから予言者が出るんです。

ところが、あれは実際は予言ではなくて、メーソンの計画を明かしただけなんです。だから逆に作偽的な情報か運ばれているというような気もしますね。ただし一九九九年という年はいろいろな災害などが一致していますので、何らかの大きな切り替えがくると思いますね(注)フリーメーソンというのは一八世紀初頭にイギリスで起こつた世界市民主義的、自由主義的な友愛運動。加入に際して象徴的、神秘主義的

な儀式を行つたり、メンバー同士が一定の合図などで確認し合うので、誤解され迫害の対象になつた)。

でも今からでも一般人の想念の切り替えによつて、その大変動のパターンを変えることはできますよ」

——その大変動というのは自然の変動ではなくて、人為的社会的なものですか。

「ええ、そのとおりだと思います」

——そうすると戦争になるのですか。「そんな気がしませんね。今度大きな戦争をやつたら自然現象まで呼び込むことになると思うんです。そのことは大昔にアトランティスでやつているんです。アトランティス大陸では超能力戦争もやつたようですが、そのために自然界のバランスをメチャメチャにしたわけですよ。それで当時、事前に大陸沈没を察知して宇宙船で大気圏外へ逃れた人もいたようです。ですから地球の今世紀末もそのくり返しになるかどうかの境目になるでしょうね。そういう理由で別な惑星から宇宙船が結果してきているのではないかという気もしますね。だから日本人のこれからの十年は非常に重大な正念場だと思います。

したがって宇宙人側としては、地球人のいろんな駒を動かして活動を展開する必要があります。こんな言い方をしたいけれども、こんな人が、宇宙人は、こんな人かと思うような人でもその人のプラス面だけを見

て、非常にうまく導いているケースが沢山あるんです。本人たちはそのことに気づいていませんがね」

ここで春川氏はスペース・ピープルから助けられている二、三の人の実態を話す。それはまことに興味深い内容で、泥沼の人生を歩んだ人が、最後は宇宙的に目覚めて素晴らしいテレパシの達人になつた例もあるという。もちろんそのためには強烈な信念と忍耐力が必要で、それによって困難や障害を乗り越えようという気迫が大切なのであると話す。何もしないでポーツとしていて人を宇宙人が手取り足取りして助けてくれるわけではないのだ。

### カルマを解消する方法

「長いあいだ一つの事に打ち込んでこられたのは素晴らしいことだと思えますね。宇宙人から聞いたことですが、自分にかかわつた物事をいつまでも続けることがカルマの解消になるのだという事です。それをすぐに放り出す人はだめなのです。自分のかかわつた仕事や物事はすべてカルマなので、それがいい感情でやれるようになるまで続けるのです。

いい感情でその仕事をやれるようになったときに、そのカルマを越えることになるといふわけです。

最近ではトラバユブームで次々と仕事を交える人が多いようですが、何の

仕事にしても、いったん就職したらそれがいい感情でやれるようになるまで続けてから次の仕事に変えるとよいのです。

学生さんにしても数学のきらいな人は数学の教科書を見ているだけで頭が痛くなってくるでしょう。そして数学の教科書をそばへ放り出して図鑑かマンガの本を読んだりします。そしてそれが次第に面白くなって、いま大変面白い所を読んでいるんだという愉快な感情がわいたときにマンガ本をパツと閉じて、すぐにかたわらの数学の教科書を開きますと、今度は非常に理解しやすくなるんです。こうした法則みたいなものがあるんです。

だから、自分にかかわった仕事や物事が楽しくやれるようになるまで続けなさいと宇宙人から言われて、私はそれを実行したためにすごく助かっています」

### 夫婦は向上を図るべし

「人間の愛情問題にしてもそうです。いまは恋愛観や結婚観にしても考え方がメチャメチャになっている面がありますが、一度かかわりあいになった夫婦というものは、常に向上することを考えないといけないんです。ですから、夫多妻制みたいな変な状態になるかもしれませんね。」

だから宇宙人というのはその面でも非常にしつかりしていますね。彼らは一夫一婦ですからね」

——金星人はフリーセックスだというような噂がいつとき流れましたが——「いや、そういうことはまずあり得ないでしょう。それを言ったのはコンタクトマンのTさんですよ。あの方が最初に本にそのことを書いて、それから噂が広がったようですね。あるいは彼らは性にたいする観念が進んでいるのかもしれない。地球人ほどにドロドロしていないのでしょ。

宇宙的な性意識というものがあるらしいんです。昔の聖人賢者で樹木に手を触れるだけで性的な快感をおぼえる、あるいは大地の脈動を感じるだけで歓喜の感情がわき出てくるという例があったようですが、宇宙人もそのようなレベルになってくるのではないのでしょうか。宇宙的な歓喜ともいうべきものでしょうね。」

私も山奥へ入り込んで樹木に触れたときに、ものすごい歓喜の情に打たれて、これだノと思ったことがあります。木の生命感が全身にしみ渡ってくるんです。こんな体験は一回だけでした。

こんなふうなハイレベルの歓喜の感情を起こすようになると価値観も変わってくるでしょうね。地球の人間を規制してつなぎとめているクサリみたいなものはまだ沢山あると思います、それを一つ一つ打ち破ってゆかなくて

はいけないのでしょね。

あるとき私が宇宙人にむかって「こうして宇宙空間を飛びまわっているのは大変でしょうね」と言ったら、「いや、私たちは楽なもんです。あなた方は地球人こそ大変でしょう」といって逆に慰められたことがありますよ。

「だって地球人はこんな狭い世界で、そんなに狭い概念で、それでも必死に生きています。私たちよりもあなた方のほうがずっと大変ですよ」と言うのです。でも宇宙人も地球のいろいろな場所へ降りてきて、いろいろな仕事をやっているようですから大変でしょうね。NASA(米航空宇宙局)にも入り込んでいると聞いています」

### 同質結集の法則

——NASAが金星の表面温度をセ氏四八〇度と発表しているのは完全なごまかしであって、裏面では真相を知っているわけでしょう？

「そうですね、それは言えると思います。かなりとりつくりついている事もあるんじゃないですか。それとソ連にたいする威嚇みたいなものもあるんでしょね」

春川氏はかなりの真相を知っているようだが、このあたりは明確に言わない。ソ連の宇宙開発計画についても疑問点があるという。また日本の自衛隊に関してもしきわめて興味深い話をして

くれたが、それによると米空軍も日本の航空自衛隊もUFOの追跡をしよちゅうやっているのだと話す。その他の秘話が続いているうちに電話がかかってきたので、氏は中座して電話に出た。そして驚いたような声で、いま編者が来ていることを告げて、すごい感覚だねと話合っている。

やがて元の座に帰った氏によると、いまの電話の主はコンタクトマンのS君で、今日春川氏の家に何か変わったことが起きているような感じがしたので気になって電話をかけてきたと言った。実はいま東京からこういう人編者が見えているのだと話したら、相手は子供の頃に編者に会ったことがあると言ったという。そういえば記憶がよみがえってきた。東京タワーにアダムスキータイプの円盤が接近して、中の宇宙人が手を振るのをタワーから見たという体験の持主だ。

それにしても春川氏の宅に珍客が来ていることを遠方から感じて電話をかけてきたので、すごい感覚だと氏も驚いている。どうやら春川氏の交友範囲はこうしたテレパシクなコンタクトクテイーの集団らしい。ただしコンタクトクテイーといっても春川氏のようなハイレベルのレギュラーばかりでなく、テレパシーによって円盤や小型円盤などが身近に出現するという人々たちも含めての総称である。もちろんUFOを科学的に研究すると称している人々とは

はるかにレベルの異なる集団であり、人間の内部に存在する隠された偉大な能力の開発、他人にたいする援助救済を真剣に実践している、いわば宇宙的なカルマを持つ人々と言えるだろう。その中心をなす人が春川氏である。

「私が以前に聞いたコンタクトマンの人たちで、なかなかすごい体験を持った人がいましたね。富士山の近くにSという親子でコンタクトした人がいましたし、伊東には七十歳代の方で母船会議にまで出席したという人もいましたね。御殿場にはタクシーの運転士でコンタクトマンの十年選手の人がいました。」

ところがこの人たちはみなクセが強く、警戒心が異様に強いんですよ。警戒心がひっくり返ると敵対心になりますからね。お互いに相手を認め合いませんから、結局個々の闘争レベルで終わって、宇宙人も次第に離れてゆきますから、寂しい寂しいという状態になり、あとは自分のコンタクト時の普話を吹聴するようになるわけです——そんな場合は宇宙人も離れてゆくのですか。

「ええ、それは宇宙の法則に従ったことです。前にもお話ししましたように『同質結果』なのです。質の同じ人間は運命的にめぐりあうんです。質が変わると離れてゆきます。磁石みたいなもので、磁力がなくなると離れるのと同じです」

——類をもつて集まるといふ法則ですね。

「そうです。だから宇宙人に来ていただこうと思えば、宇宙人と同じ類または質を持たなければだめなんです。」

ただし宇宙人から与えられたエネルギーをあまりマスコミみたいな方向に消費するとよくないようですね。超能力者で燃えつきてしまうような人がいますよ。

だから人に語ったり講演する場合でも、時と場所を常に考えていないとだめなんです。失敗するとサーッと力を持って行かれるような感じがします。私にしてもその時と場所をずっと考えてきたんです。こういう情報を部外に公開する場合は非常に問題があります。特に若くてコンタクトマンになるケースが七四年頃に多かったです。落ちる人は落ちましたね。なかなかコンタクトマンとして続けるのはむづかしいもんです。確かに大変なことなんですよ、これは」

宇宙人に会いたいな、円盤に乗りたいなと幻想的な甘い夢ばかりを追っている人には春川氏の言葉がこの上ない警鐘になるだろう。といって簡単にあきらめてもいけない。要は円盤・宇宙人問題の本質をよく認識して、それなりの自己訓練や研さんを積むことにあるとしか言いようはないだろう。

二度にわたる長時間の対談で痛感し

たのは、春川氏が終始誠意をもって温かい態度で迎えられたこと、徹頭徹尾、万人のプラス面だけを見て優しく見守り、何とかして救ってあげたいという意欲を示されること、自分のためではなく他人のために生きているという態度が強いことなどである。該博な知識と相まって、またしてもこれが二十五歳の青年かと驚嘆の念を禁じ得ない状態であった。多年無数の人に接してきたが、このような方に会ったのは初めてである。まさにレギュラーのコンタクティーにふさわしい人物であると言えよう。

再度言う、氏が普通人と全く違うのは、万物から発する波動を感受するテレパシクな能力を有すること、万物を徹底的に善意に、つまりプラス面だけで見るという点にあるだろう。一般地球人が想像もしないレベルで生きている春川氏の世界は、アダムスキの言う宇宙の意識と心との一体化した世界であるようだ。

氏の話は、太陽系の地球以外の全惑星群に偉大な文明が存在し、各惑星に住む超高度な発達をとげた人類が、救援のために宇宙船(母船・円盤)で大挙して地球へ来ているというのは当然すぎるほど当然の事実であるところから感じさせるのである。そしてこれはUFO存在の真否論などをはるかに超えたレベルの、宇宙空間の実態を伝えるものすごい情報である。(以下次号)



# 東京月例研究会200回達成記念

# 61年度 日本GAP総会

昭和28年より偉大なコンタクティー、ジョージ・アダムスキーと交流を開始し、ア氏の要請により昭和36年に郷里島根県で知らせる運動のグループ「日本GAP」を創立した会長・久保田八郎先生は、昭和44年7月に東京へ進出。以来満17年間東京月例会を開催し、UFO問題と宇宙哲学の普及指導に多大の貢献をされましたが、今年8月で月例会連続200回の記録を達成しました。今回はこの輝かしい業績を記念して盛大な総会を開催いたします。特にハイライトとして、本誌連載中の大ヒット記事「私は別な惑星へ行った」の主人公・春川正一氏が特別友情出演し、約1時間半にわたって大講演を行います。また質疑応答も氏が担当されますので、めったにない機会ですから万障お繰り合わせの上、多数ご参加下さい。役員一同心からお待ちいたしております。

日本GAP東京本部役員代表 篠 芳史

	総 会	大 祝 宴 会	東京都市内観光
日時	9月21日(日、飛石連休の初日) 午後1:00→5:00	9月21日 午後6:00→8:30	9月22日(月) 午前9:00→午後5:00
会場	「銀座ガスホール」7Fホール 東京都中央区銀座7丁目9番15号 ☎(03)573-1871 国電有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き、西武デパートと阪急デパートの間の筒抜けを通り抜けて有楽町の大通りへ出る。この大通りを左へ3〜4分歩くと銀座4丁目の交差点に出るので、そこを右折して銀座中央通りをまっすぐ行き、松坂屋デパートの前を通りすぎて約100mの所に銀座ガスホールがある。入口より奥へ行き、エレベーターで7Fへ上がる。有楽町駅より徒歩約13分。資生堂本社の斜め前。	中央区有楽町数寄屋(すきや)橋交差点角の東芝ビル7F(1Fは阪急) <b>レストラン「四季」</b> ☎(03)575-3311 有楽町・数寄屋橋交差点角まで行き、ソニービルの向かい側の東芝ビルの右手にまわるとエレベーターがあるので、7Fへ行く。 大祝宴会は立食形式。 ※総会当日は日曜日のため銀座中央通りは歩行者天国となり、自動車は通行止めになります。	団体用大型貸切バスで「東京ホテル浦島」を出発。 定員45名。 雨天決行。 ※列車・飛行機等の都合により早目に引きあげる方には便宜を図ります。
会費	¥3500(会場受付でご納入下さい)。	¥6000(祝宴会場受付でご納入下さい)	¥2700程度。(当日バスの中で田中氏が集金します)昼食代別。
プログラム	1:00 司会者挨拶 篠 芳史 1:05 講演「アダムスキー問題と日本GAP」 ↓ 日本GAP会長・久保田八郎 2:00 休憩 2:05 講演「私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性」春川正一 3:30 休憩 3:40 質疑応答 春川正一 4:40 東京月例会200回達成のお祝い ↓ 5:00 ※注意 春川正一氏の講演中に氏を写真撮影することは厳禁しますのでご協力下さい。	6:00 司会者挨拶 篠 芳史 6:05 会長挨拶 久保田八郎 6:10 乾 杯 野口敏治 ↓ 祝宴、余興、福引あり。 8:30 ※終了後、有楽町駅丸の内側「そごう」デパートの左側にある「有楽ビル」地下1階奥の「チボリ苑」にて11:00まで2次会開催の予定。希望者は大祝宴会終了後、東芝ビル1Fエレベーター前のロビーに集合して下さい。	9:00ホテルをバスで出発→東京駅八重洲口→皇居前広場二重橋→銀座4丁目→東京タワー→原宿ファッション街→NHK放送センター→新宿超高層ビル→秋葉原電器商店街→東京駅→ホテル浦島。 ※このツアーは重要観光地を重点的に見学し、そのつどバスを降りていったん自由行動にするのが特長です。 昼食代は¥1000程度。

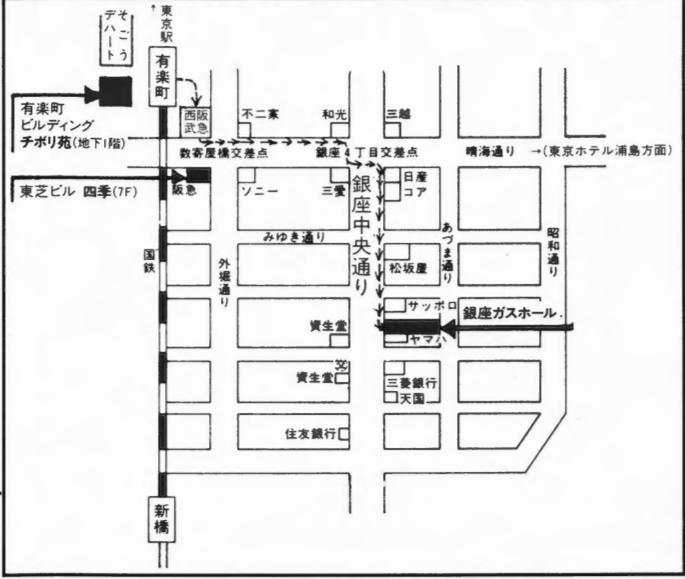
9月21日夜の大祝宴会、22日の都内観光、宿泊の希望者は下記の要領でお申込下さい。

(1)大祝宴会=ハガキに「大祝宴会出席申込」と記して下記の申込先へ9月19日までに(必着)お申込下さい。定員100名。

(2)都内観光=9月10日までにハガキで下記へお申込下さい。定員(45名)に達しない場合は料金に多少の変動があります。

(3)宿 舎=「東京ホテル浦島」をお世話します。中央区晴海(はるみ)2-5-23、☎(03)533-5331、シングル¥6000/ツイン¥11000、希望者はハガキに①宿泊日②シングル、ツインの別③住所・氏名・電話番号を明記して下記へ9月15日までにお申込下さい。

■申 込 先=上記(1)~(3)の申込はすべて下記へ。  
〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイーストビル2F  
ワールドセブントラベルKK  
田中正(宛)  
☎(03)499-2461 夜間は田中自宅の(0474)77-4728へ。



## 投稿欄

## ユーコン広場



## 93号の記事に驚嘆

大分県 十菱 麟

室温23度Cの豊後山奥も陽春。風呂上がりでピアをやつてゐます。

本誌93号には驚嘆しました。いつも乍ら流麗精密な巻頭言の文体に感心し、つづいて「私は別な惑星へ行ってきたノ」を読んだのです。内容も編集もすばらしく、ポルドーの銘酒をのんだあのやうにすがすがしく、生きるのがたのしくなりました。春川氏の高貴な魂については疑ひやうもなく、私の全知人・心友にこれをよませたくなりました。

ラット・レース(くだらない無益な競争)に明けくれる世間大衆に、もつともつと啓蒙の手を伸ばさねばなりません。事実は雄辯であり、目を覆ふことはできません。

近ごろ私の息子くらの年齢の青年が関西地方に一種のファンクラブを結成しつづつありますが、この人たちにもあなたの活動を知らせたいと思つてゐます。

尊兄の如く生きるならば七十、八十になつても世上のポケはなく、いつも宇宙の生命力にみたされるはずで

す。七〇年代私も富士と帯広と阿蘇に惹かれてゐました。サイティング円盤目撃は富士宮で東京オリンピックの年にあり、N君たちの証言があります。

大分県では柞原八幡のそばでひん

ばんにあり、最近はいつかお知らせしたやうなUFOとの対話がありました。スベース・ビーブルとの直接コンタクトはまだありませんが、いづれさういふ時期もあるでせう。とにかく貴兄の組織の躍進が目に見えるやうです。

私は一月にシンガポールに行き、すつかり東南アジア好きになりました。

東京はかへつて遠い感じで、なかなかお会いできませんが、いつかテープでお話ししませう。書煙気味で書くのがオツクウになつてきました。版下製作もおやりになるとか、大変な仕事量ですね。とにかく八面六臂のご活躍に舌を巻いてゐます。

私は例によつて竹の子を掘つたりニンニクを作つたり、すつかり田舎爺みたいな暮らしをしてゐます。先日はイタチにニハトリが喰はれて埋葬したり、大変原始的な日常です。ご健闘を祈つて。(原文のまま)

## 啞然たる93号の記事

広島市 佐々木朋子

木々の若葉がかぐわしく風にそよぐ季節となりました。先生にはお変わりございませんか。

先日はUFOコンタクトイヤー93号を送つていただき、誠にありがとうございました。今度も素晴らしい内容で、特に「私は別な惑星へ行ってきたノ」の記事は、いっしょに読み終えて、その内容のものすごさに啞然

となりました。今日さつそく書店に置いてきましたが、きつとたくさんの方に読んでもらえることと思います。

前回の92号の売れゆきは金正堂十冊、中央書店八冊でした。売れ残った二冊は私が引き取らせていただきます。

新潟、静岡と支部大会が続き、お忙しいことと存じますが、お身体に気をつけてご活躍ください。

## 93号の記事のすこい内容に驚く

埼玉県 清水畑 博

本日(四月二十五日)93号を受け取りました。さつそく22頁から読みましたが、すこい内容ですね。テレパシーやオーラについての記述も、従来のものとは別のものでした。

日本にスペース・ビーブルのネットワークがあるかもしれないと思つていましたが、まさか本当だとはスペース・ビーブルの顔の特徴が記述されていて参考になりました。しかし彼らも何らかの使命を帯びてゐるはずですから、邪魔をすべきではないでしょう。必要なら彼らから近づくでしょうから。

26頁の三段目の太字。要するに小生はこの世界でまじめにやるのが使命の一つということですね。

25頁から26頁にかけての物理現象について、光とか単極磁気については、とても現在の物理学ではわかりません。結局スペース・ビーブルとの違いだけを感じるだけです。イメージ法について傍証はとれていませんね。小生の例で失礼ですが、昔思つていたことが実現しています。SFの世界にいるやうなものです。

以前の医大のような暗く陰湿な、しかもお先真っ暗な世界とは正反対の世界です。土星に岩手県の純米原酒「関山」を送りたいものです。

30頁のUFOの操縦法について。以前はどうしてもわかりませんでした。だが、とにかくすこい内容ですね。想念を物理的方法で取得できるのですね。

31頁の宇宙的な波動を放つ土地とそうでない土地があるというのは事実でしょう。実は私のおやじが秋田県鹿角市にいた頃、その土地はなぜか冷たい感じがしていました。そしてその土地の地主になった人はなぜか次々と若くして死にました。死因はいろいろでしたが、

同様なことは住宅の営業マンも言つていました。よその家の玄関に入っただけで暖かい、または冷えた感じがするものなぞです。冷たい感じがする家は家庭内の不和、借金、これから生じる不幸があるということ、で、門構えの立派さ、家の大小、新田に関係ないやうです。

32頁の病気の治療法は本当でしょう。近頃の医療は単なる車の修理と変わりません。真の医者患者の歩き方、話し方、ちよつとした仕草で病気を当てるものです。それだけの能力のない者が検査機械を使つて診断している、というのは言いすぎかな。いろいろと医療の裏を知つてゐるので教えてもよいですが、

93号の記事については賛否両論で騒がしくなるでしょうが、がんばつて下さい。

## GAPは宇宙的向上の場

神奈川県 富岡設子

私はまだGAPを知つてまもない者ですが、毎回家晴らしい講演に心から感謝しております。

静岡支部大会では直接先生にお話が出て大変嬉しく思つております。なにしろまだ何も知りませんので、(毎日毎日山ほど質問しても足りないくらいです)とても貴重な体験でした。

幸いに私が勤めておりました所では、著名な方々の講演を聞くチャンスも多く、大変恵まれた一年間をすごすことができ、一年前(宇宙的な事に目覚める前)の自分とは雲泥の差といつても過言ではないくらい見えない部分の成長がありました。そこへGAPとの出逢いがあり、

「更に向上したい、現実のあらゆるきまり事から少しでも自分を解放したい、そして宇宙の秩序を心ゆくまで勉強し、生活の場を生かしてゆきたい」そんな思いが強まり、ついにイメージ通りに五月中旬に退職しました。現在は以前の職業を生かしてフリーでデザインの仕事をしておりまして、これからは毎月必ず東京月例会に参加できそうです。今はそれが一番の喜びです。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

## 静岡支部大会の講演に感動

東京 佐々木八郎

静岡での先生の大講演は私を宇宙の高みへと引き上げて下さいました。有難うございました。今の地球上で私たちGAP会員は「何をなすべきか」がよくわかりました。カルマのこともよくわかりました。特に「自分の今やっている仕事が楽しくできるように」

になったときにカルマが解消

される」ことや、「カルマが解消されることは宇宙的進歩をとげたことになる」ことがよくわかりました。いや、わかったような気がします。そして「楽しさがわき起こってくるのを待っているのではなく、自分からつくり出すのもできる」。「それにはミラクルワードやミラクルイメージを応用すればよい」ことも。そして具体的なオラ透視や遠隔透視の能力を得る方法も示されました。

私はこの頃、毎日十五分間、白紙をじっと見ることを続けています（一日目には、紙に目の焦点をあててはいなかったのですが、何か紙のせみの内部の模様のようなものが見えました）。

それからミラクルワードをつくり、心の中にイメージを描いています。通勤の行き帰り、休み時間などにこれらをやっています。たしかに自分の心に変化し、楽しいフィードバックが心の中にわき起こってきます。時々忘れることもありすが——。ミラクルワードをワープロで書き、ノートに貼りつけ、ノートを閉じても視野の中に残るようにして忘れないようにしています。

「私は楽しい。私は元気。私は嬉しい」「おはようございます。今日もお仕事をがんばって下さい」など、ミラクルワードはいろいろ考えてつくっています。

二日間一諸に参加者や静岡支部会員と行動させて頂き、GAP会員との親切で友好的な一体感も深まりました。楽しい、心の洗われる二日間でした。

静岡支部大会を通じて私の信念は確実に宇宙的真実、進歩へ一歩近づ

いたように思えます。ありがとうございます。

### 素晴らしい 長野支部大会(1)

長野県 宮下かづえ

先日は第一回長野支部大会での素晴らしい講演をありがとうございます。いつも先生のテープを拝聴しておりますが、やはりナマのお話は迫力十分で、心から感謝しております。そして遠路駆けつけて温かいご支援を下さった先輩支部の皆様方に厚く御礼を申し上げる次第です。

長野支部のために惜しめない奉仕をして下さっている姿に輝くような尊さを感じつつも、立場上自分と一緒に働けないのがゆきと申し訳なさで、チョッピリ寂しい気持がよぎったりしていましたが、結婚十年、ここまで主人がつき合ってくれるようになりましたも、一重に先生や皆さんのお陰でございます（主人にはときどき先生の解説テープを聴いてもらったり、ユーコンを読んでもらっています。昔はUFOの記事などはバカにしたような態度をとっていたこともありすが、この頃はそのようなこともなくなりました）。

ですから、ここまで理解を示してくれるようになった主人の気持を考えると、本当はもっと手軽にGAP活動をしたいのですが、学ぶべきカルマが大きいようであり、当分は大手を振って外へ羽ばたくことはできそうにありませんし、自分のできる範囲での活動に限られますが、これも良い勉強と思っています。

波動の高い皆さんの中にある自分が、心やさしくおだやかな気持に満

たされているのが嬉しくて別れがたい夕食会でした。レベルの高い人々とのまじわりが、いかに重要であるかをまたまた痛感しております。

松村さんによろしくお伝え下さい。

### 素晴らしい 長野支部大会(2)

長野県 榎原心一

大会ではお身体大変ではなかったかと心配です。早速に写真をお送り頂き、誠に有難う御座居ます。家中にて会員の方々の素直さに深く感動致しております。

先生との三日間は本当に楽しかったなあと子供みたいに喜んでいました。特に二十五日のお話は真実、まるで私のためだけのよう思って拝聴致しました。すべてをプラスに持って行けという宇宙的な尊いお話、有難う御座居ました。私自身がプラスの意識を持つことが、先生への、また日本GAPへの御恩返しかと勝手に決めております。今後共御指導のほど御願ひ申し上げます。

### 生きていることの嬉しさ

熊本県 嶋本佳代

そろそろ日差しが強くなってきたように感じる今日この頃ですが、お元気でしょか。私はGAPに入会させて頂いても五年程になりました。その間一度も手紙をさし上げたり、支部大会その他の催しに参加させて頂いたことも不真面目な会員です。申し訳ありません。久保田先生たちの御活躍を会報で読ませて頂き、同じ会員として情けないなと思いつながら、「出精、筆不精、なまけ者、の三拍子トリオのため、せつかく知ることのできた宇宙哲学を生かせな

て御指導下さい。

### 正しい食事を作って奉仕

アラブ連邦首長国アブダビ 菅野文夫

先生のお手紙をありがとうございます。ミラクルワードは毎日となえておりますが、イメージの方はむずかしいですね。機関誌はとても読みたいと思っております。

七月に日本に帰ったら料理関係の仕事をして頂いて、日本人の人々に正しい食事を提供したいと思っております。東京月例会に出席すると、一日で百年間ぐらいの知識が身につくように思います。いつまでもレッスンを続けたいと思います。どうか導いて下さい。苦しんでもがんばります。

### テレパシー能力を持つ息子

秋田県 田村真理子

お元気でいらつしやいますか。育児など生活に追われてアダムスキーの本を読むこともほとんどなかった私が、再び毎日のようにア氏の本を読むようになりました。そのせいか宇宙的な高揚感が戻りつつあります。光り輝くオラがよく見えます。

先日二才になった息子が突然「死ぬ、死ぬ」と言って泣き出したのです。その夜、金魚が一匹死にました。二日間の朝、祖父が豆まき機がこわれているというので、農機具屋へ機械を持って行きました。そのあと目を覚ました息子が「おじいちゃん、こわれた機械を持って行ったよ」と言ったときにはドキッとしました。こんなことがよくあるのです（注）筆者は旧姓中川。本誌80号に「美しい惑星の思い出」を寄稿）

そこでお願ひがあるんですが——、私、現在クラブ（プラスバンド）をやっています。パイオができません。そのため金欠です。総会や支部会や献本運動にしばらく参加させて頂くのは難しいようです。そこで私の出来る範囲といたしまして、アダムスキー氏の本の点訳をさせて頂いて、点字図書館か盲学校カライトハウスに寄付したいと思っております。よろしいでしょうか？ まず「生命の科学」から始めたいと思います。これからも元気でGAP活動を続け

# ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全7巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコナンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と眞の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必携の名著です。

## 1 宇宙からの訪問者

三三八頁 二五〇〇円

ジョージアダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会った体験、空飛ぶ円盤は着陸した。本書の第一部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会った実録を第二部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

## 2 UFO問題の真相

二六二頁 二五〇〇円

第一巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推定理論や、聖書とUFOとの関係述べた箇所は重要である。第二部はアダムスキーの世界講演旅行記、各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

## 3 UFOとアダムスキー

三五〇頁 二五〇〇円

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第一巻。死と空間を超えるが圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたぼう大な情報と書簡類を収録して第二部とした。

## 4 宇宙哲学

一四八頁 一三〇〇円

人間のセンス・マインド(肉体の心)と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理論整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

## 5 テレパシー開発法

一九〇頁 一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発方法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の四官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシー的印象を受感する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話を行う技術を探った。類書の全く存在しないガイドブック。

## 6 生命の科学

二〇五頁 一八〇〇円

アダムスキーが他界する数年前に出した「Science of Life」と題する十二分冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙の哲学の総まとめ的な一大金字塔で、眞実のテレパシーと心靈的な靈界通信の相連を明確にし、心靈現象への接近を警告する画期的な書。

## 7 アダムスキー論説集

三七〇頁 二五〇〇円

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編纂したものである。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第二部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度渡来してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を取録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

発行所直接注文の場合に限り、左記のように定価、送料をサービスいたします。

☆一冊注文

- ☆第一巻より第三巻まで一括注文 (送料共)
- ☆特別セット価格 七〇〇〇円 (送料共)
- ☆第四巻より第七巻まで一括注文 (送料共)
- ☆特別セット価格 六五〇〇円 (送料共)
- ☆第一巻より第七巻まで一括注文 (送料共)

全巻セット価格 一三〇〇〇円 (送料共)

※郵便振替または現金書留にて注文下さい。

文久書林 〒113 東京都文京区西片1-19-10 西片ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521

### 英文版「UFO contactee」No.2刊行中

■60年7月に刊行したNo.1は世界のUFO研究会で絶賛を博しつつあり、長い伝統を誇るイギリスのUFO専門誌Flying Saucer Review誌、イギリスGAP機関誌ニュースレター32号、デンマークGAP機関誌ufo contactその他が記事を転載して激賞している。また多数の欧米UFO研究グループと機関誌や情報交換のルートを確認し、日本GAPは名実共に東洋最大のUFOと宇宙哲学研究グループとして一躍脚光を浴びるに至った。

■第2号も日本GAP・久保田会長が執筆した格調高い英文記事により、A Japanese Boy Who Went Aboard A Flying Saucer!、How To Produce Miracles、1985 GAP-Japan General Assembly その他の記事を満載。会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを駆使してオフセット版下を作成。デザイン、レイアウトから1字1句に至るまで会長が熱意をこめて作ったこの国際的文献をぜひお読み下さい。英語学習用にも好適。

B5判 12頁 最上質アート紙使用 ¥300(送料¥170、3冊まで¥240、10冊まで¥350) 注文は郵便振替で下記へ。切手代用も歓迎。日本GAP 振替 東京4-35912



**UFO contactee**  
International Edition  
No.2 FEBRUARY 1988  
UFOs & Cosmic Philosophy Services  
A Japanese Boy Who Went Aboard A Flying Saucer!  
by Hachiro Kubota

## 第6回新潟支部大会

●昭和六十一年四月二十九日(祭)

●長岡市 ホテルやまざわ

●出席者 十二名

去る四月二十九日、飛び石連休のさなか、新潟県長岡市で東京より久保田八郎先生を招待して、スペース問題と宇宙哲学のセミナーが開催された。

会場内は個々の参加者が放つ良きフイーリングに満ちて、セミナー全体の雰囲気は今までになく盛り上がった。

久保田先生の講演内容は、①万物を見るのに(特に人間)、そのプラスの面を見る。春川正一氏は徹底的に実行している。これが宇宙的な人間の生き方(徹底したプラス思考が大切) ②自分を攻撃する人にたいして、ハラを立てて対抗するならば、これは相手と同じレベルに降りてしまうことになる(同質結果)。③戦争を無くする方法。日本人の10%が世界の平和を思念すれば世界中が平和になる。(プラスのイメージ、プラスのコトバ) ④SP(スペース・ピープルの略)にはひとりひとり役割がある。コンタクトや指導の役割をもたないSPは、GAP会員であっても会うのを避けるものだ。⑤SPを見分ける方法(オーラ開発法)。以上が中心となる内容である。とくに⑤は短期間でオーラを開発する方法を詳細に具体的に示すものであった。あとは

私たちの実行の有無にかかっているだろう。

今回は小人数のセミナーであったため、その分かえって親密さが増し、久保田先生を囲んでの質疑応答や続く夕食会から三次会に至るまで活発に質問

が出され、有意義な一日をすごした。又、翌日の市内観光でも同様であった。やはり宇宙問題に精通した人から直接に話を聴くのが最高に良いのだ。そこに地方支部大会の意義があるのだろう。

(星 富治夫)



## 第8回静岡支部大会

●昭和六十一年五月四日(日)

●静岡市 静岡ステーションホテル

●出席者 百名

すがすがしい若葉が目にしみる五月四日、静岡市で第八回静岡支部大会が久保田会長をお迎えして開催された。会場の駅前のホテルには、北は北海道、南は九州からと日本全国より熱心な会員の皆様が多数参加され、GAP特有の熱気にあふれるなか、高梨和明氏の司会で大会は始まった。

待ちに待った久保田会長の大講演、演題は「スペース・プログラムの実態」。出席者全員が一言も聞き洩らすまいと全身を関心の塊として聞き入った。

先生のお話で私達GAP会員のこの地球での「やるべき事」が方向づけられた。「今生でのカルマの解消の方法」「ミラクル・ワード、ミラクル・イメージそして信念の力の応用」「オーラ透視と遠隔透視の練習方法」など数々の宇宙的人間になるための実践方法が公開された。又日本民族の10%が世界平和を信じれば世界は確実に平和になる。このように日本民族は信念の大変強い民族である。これらのお話は私達に大きな勇気と使命感を強く与えた。

久保田会長の講演は、いままでの支部大会には例のない画期的な内容だった。質疑応答の時間でも活発な質問が出さ

れ、先生はこれらに一つ一つ丁寧に答えられた。

夜の夕食会でも八十名という多数の皆様が参加され、遠来の方々とおおいに親睦を深め合い、楽しい時間を過ごした。翌日の観光は天気予報に反して朝から晴れわたり、絶好の行楽日和となり、清水港、日本平、県立美術館などを周遊し楽しい一日を過ごした。

今回の大会では、久保田会長を始め会員の皆様方の絶大な協力により大成功をおさめることが出来た。心より感謝申し上げます。(野口敏治)



## 第1回長野支部大会

- 昭和六十一年五月二十五日(日)
- 松本市 松本市勤労者福祉センター
- 出席者 二十八名

風薫る五月の空の下、第一回長野支部大会は久保田先生の陸軍航空隊時代の思い出の地、松本市で開催された。実に四十一年ぶりのご来松。前日まで雨天の肌寒い日が続いたが、大会当日はウソのように晴れ渡ったのに皆驚喜した。

熱気あふれる中を先生のご講演が始まる。特に印象に残ったのはコンタクト時代に突入したといわれるにふさわしい熱のこもりようで、オーラ透視練習板を使用しての講義は興味深く、今大会のハイライトとなった。その他にかなりの収穫もあった。それは非会員でUコンの読者が先生を訪ねて来られ、ア氏問題を全く疑いのないものと絶賛されたことや、開催にあたって多数の人にGAPの存在を周知せしめたことなどである。

続く夕食会は終始和気あいあいたる雰囲気の中にすめられ、大会の思い出を深めながら二次会場へ移動。ここでも先生から多くの興味深いお話を聞き、さらにホテルの部屋で三次会を開いて熱心な質疑が続く、実に密度の濃い一日が終了した。この日先生は完全にアルコール抜きで一同にお付き合い

下さって有難うございました。

翌二十六日は十名で快晴下を観光に出発。松本城天守閣より北アルプスを眺望、めつたに見られぬ槍ヶ岳を見て大喜び。名物の信州そばに舌鼓を打ち、郊外の安曇野へ。「春は名のみの風の寒さや……」で名高い歌曲「早春賦」の歌碑、大王ワサビ園その他を見学。のどかな田園地帯を流れる梓川や高瀬川の清流に心が浄化される思いがする。こうして午後三時すぎ松本駅で先生ご一行を見送って大会は大成功裡に終了した。御指導頂いた久保田先生、支部役員の皆さん、出席下さった会員の方々、そしてお世話になった前支部代表・大野仁氏に心から感謝申し上げます。(博田文喜)



## 第1回GAP幸せカプルの集い

- 昭和六十一年六月八日(日)
- 東京 東京駅構内「精養軒」
- 出席者 二十八名

この会は縁結びの要因である久保田先生と、多数のカプルの仲人をされた野口敏治氏御夫妻を迎えて、夫妻ともGAP会員である夫婦同士が集まり、楽しい一日を過ごすために企画されたもので、全国に散在する約二十組の内、十組が参集、本部役員三名が出席した。

篠芳史氏の名司会でパーティーの幕が開き、野口氏、久保田先生のご挨拶、記念撮影、乾杯後、立食形式でなごやかに歓談。続いて各カプルの紹介と一言挨拶。各自壇上でテレながら出合いの状況を話す。そのあとゲームを二種類行い、殿方が目隠して自分の奥さんをおてる競技は抱腹絶倒。数組のカプルのキスの実演等、実に愉快な集いであった。全員が宇宙哲学を基礎にして宇宙的思想を持ちながら理想的な家庭を築こうと努力しているカプル同士の集まりであるから、きわめて高次元な波動が流れ、巷間の宴会に見られがちな無思慮な喧騒、野卑などのカケラもない美しい雰囲気満ちていたことは特筆に価する。さすがはGAP会員であるとの感を深くした。なお本部役員ご一同様と秋田県の田村勝則・真理子様御夫妻より祝電を頂いた。いつか第

二回目のカプルの集いを開催するつもりである。(遠藤昭則)

写真 前列左より、佐藤忠義・智子

(東京)、遠藤昭則・由貴子(千葉市)、久保田会長、野口敏治・静代(静岡市)、高梨和明・美幸(静岡県)。中列左より、松村芳之、篠芳史、田中正、安藤澄雄・博子(東京)、野口氏令嬢、原永庫・恵(神奈川県)、中里信彦・嘉代子(千葉市)。後列左より、高橋徹恭代(大分県)、清水正・敏恵(山形県)、齋藤泰文・津多子(東京)。



# 〈予告〉61年度地方支部大会〈その3〉

	61年度 大阪支部大会	第4回 福岡支部大会	第7回 仙台 山形合同支部大会	第6回 札幌 旭川合同支部大会
日時	10月19日(日) 午後1:00→5:00	10月26日(日) 午後1:00→5:00	11月2日(日、連休初日) 午後1:00→5:00	11月23日(日、連休初日) 午後1:00→5:00
会場と交通	「京都祇園ホテル」 大会議室 ☎075-551-2111 京都市東山区祇園町南側555 国鉄京都駅から車10分、阪急河原町(かわらまち)駅から徒歩7分、京阪四条駅から徒歩4分。四条通八坂神社西へ50mの所。	「チサンホテル博多」 2F ふじの間 ☎092-411-3211(代) 福岡市博多区博多駅前2-8-11 国鉄博多駅の博多口より徒歩5分。	「仙台第2ワシントンホテル」 2F オリーブの間 ☎022-222-2111 仙台市大町2-2-10 国鉄仙台駅から青葉通りをまっすぐ進み、徒歩15分、車で5分。	「札幌市教育文化会館」 3F 特別会議室 ☎011-271-5821 札幌市中央区北1条西13丁目 国鉄札幌駅より地下鉄南北線に乗り、大通り駅下車。地下鉄東西線に乗り換え(琴似方面行き)、西11丁目駅下車。札幌テレビ塔を背にして徒歩約4分。札幌駅よりタクシーにて約10分、¥600程度。
会費	¥2000(希望者のみ全員記念写真代¥800を別納。グランドキャビネット。送料共)	左に同じ。	左に同じ。	左に同じ。
プログラム	司会 斎藤康美 1:00 支部代表挨拶 平塚和義 1:10 講演「宇宙哲学とアダムスキー問題の重要性」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※うちとけたなごやかな雰囲気のもとで意義の深い大会にします。先生も京都には深い関心をよせられ張り切っておられますので多数ご参加下さい。	司会 吉岡裕人 1:00 支部代表挨拶 喜多正宣 1:10 講演「宇宙哲学とスペース・プログラム」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 休憩・全員記念撮影 3:00 自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※今回は先生を囲んで徹底的に話し合いの会にします。福岡支部の男性的かつ情緒豊かな雰囲気のもと、楽しい1日をお過ごし下さい。	司会 柴田文字 1:00 支部代表挨拶 笠原弘可 清水 正 1:20 講演「宇宙をあまかける者」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:50 休憩・記念撮影 3:10 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※今度の合同支部大会は杜の都仙台的落ち着いた雰囲気の中で、きめこまかい運営下にご満足のゆく大会にします。多数ご参加を。	司会 未定 1:00 支部代表挨拶 高野省志 阿部 堯 1:10 講演「宇宙哲学と知らせる運動」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 休憩・全員記念撮影 3:00 自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※初冬の札幌ながら温かい会場でゆったりした雰囲気の中で、先生を囲んで話し合いに徹底して、今年度最後の支部大会として有終の美を飾ります。万障お繰り合せの上、多数ご出席下さい。
夕食会	大会終了後6:00より8:00まで同ホテル宴会場にて立食形式の夕食会を開催します。 会費¥5000	大会終了後6:00より8:00まで同じホテルの別室で希望者による夕食会(立食パーティー)を開催。 会費¥5000	大会終了後6:00より8:00まで同じホテルの大会会場で夕食会を開催(立食形式)。 会費5000	大会終了後6:00より8:00まで大会会場の斜め向かいにある「北海道厚生年金会館」内の宴会場にて希望者による夕食会を開催(立食形式)。 会費¥5000
宿舎	「京都祇園ホテル」をお世話します(大会と同じ場所)。 シングル ¥5500(税込) ツイン ¥10600(〃)	「チサンホテル博多」をお世話します(大会と同じ場所)。 シングル ¥5500(税込) ツイン ¥9900(〃)	「第1ワシントンホテル」を幹旋します(30名分予約済。大会会場の第2ワシントンホテルに隣接した建物)。 シングル ¥4950(税込) ツイン ¥9900(〃)	「北海道厚生年金会館」をお世話します。札幌市中央区北1条西12丁目。☎011-231-9551。 シングル ¥4620(税込) ツイン ¥8580(〃) (全室バス、トイレ、カラーテレビ付)
申込	夕食会、宿泊、観光の申込はハガキで10月10日までに下記へ。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町3丁目16-8 平塚和義 ☎06-436-3478	夕食会、宿泊、観光の申込はハガキで10月24日までに下記へ。 〒814 福岡市城南区金山団地40-204 喜多正宣 ☎092-863-5438	夕食会、宿泊、観光の申込はハガキで10月30日までに下記へ。 〒983 仙台市五輪1丁目16-14-306 笠原弘可 ☎022-295-0725	夕食会、宿泊、観光の申込はハガキで11月16日までに下記へ。 〒062 札幌市豊平区美園3条1丁目2-23 高野省志 ☎011-822-8260
観光	大会の翌日は国際的大観光都市の秋を満喫して頂きます。二条城、竜安寺の石庭、詩仙堂、銀閣寺、清水寺、その他を大型観光バスで観光の予定。朝9:30ホテル出発、午後5:00国鉄京都駅で解散。(金閣寺は金箔張替工事のため省略。銀閣寺が拝観停止の場合は平安神宮を参観) 費用¥3500(昼食代込)	大会翌日は市内観光。ホテルを朝10:00発。市内周遊(コース未定)、午後4:00博多駅で解散。 費用¥2500程度(昼食代込)	大会翌日は仙台市内観光。10:00第1ワシントンホテルを出発。伊達政宗公をまつる瑞鳳殿、青葉城跡、仙台市博物館、東北大付属植物園等を巡遊。中型(30名乗り)観光バスをチャーター。 費用¥2000(昼食代、各入場料込)	大会翌日は希望者で札幌市白石区新札幌にある札幌市青少年科学館と水族館を見学。天気が良ければ野幌にある北海道開拓の村も見学。 朝9:30ホテル出発。午後3:00国鉄新札幌駅で解散。 費用¥2000(昼食代別)
備考	10月の月例会は大会のため中止。	10月19日の月例会は平常通り開催します。	11月の月例会は開催します。	11月の月例会は、札幌支部は平常通り開催、旭川支部は中止。

## 主要訪問地紹介

★**トルコ共和国** アジア大陸の両端に位置するアナトリア半島と、イスタンブールからエディルネの町に至るバルカン半島の一部を含み、面積は日本の約2倍。北は黒海、西はエーゲ海、南は地中海に囲まれている。人口は4,600万人で99%はイスラム教スンニ派教徒。歴史は大変古くて多くの国が統治したために遺跡の宝庫ともいえる国だが、おもな歴史としては紀元前1750年から500年間栄えたヒッタイト帝国があり、紀元330年にローマ皇帝コンスタンティヌスがビザンティウムの町をコンスタンティノポリスと改名してから東ローマ帝国(ビザンティン帝国)として繁栄した。1071年にセルジューク・トルコ族が東ローマ帝国を倒してセルジューク帝国を樹立し、数百年続いたあと、1453年に別なトルコ族によるオスマン・トルコ帝国が確立して強大な権力を誇った。近代では種々の変革を経た後に、1923年に共和国になった。そういうわけでトルコにはヒッタイト帝国時代以来の遺跡や遺物が充満しており、見所は沢山ある。住民は大変親日的で、都市部のホテル、商店、空港等では英語が通用する。建築物は完全にヨーロッパ風で、国全体がエキゾチシズム(異国情緒)豊かな魅力ある風土をかもしだしている。

★**アンカラ** 標高1,000mのトルコの首都。古代ヒッタイト族が占有した都市。ギリシャ、ローマなどの統治を経て1923年に共和国成立と同時に新首都となった。近代的な都市作りにより、欧米風のスマートな高層ビルが林立する人口220万の大都会。アタチュルク廟その他見所も豊富。

★**アタチュルク廟** トルコ共和国生みの親である初代大統領ケマル・パシャをまつた神殿。パシャはトルコ大統領に3回選ばれて国の近代化に努力した偉人で、このため1934年に議会はアタチュルク(父なるトルコ人)という姓を贈った。廟は茶色の巨大な石造の建造物。壁には見事な浮彫りで彼の言葉が刻まれ、列柱の奥に黒大理石の墓標がある。1953年完成とともに遺体がここに移された。

★**ヒッタイト博物館** 古代の謎の民族ヒッタイトの文化に関する世界最大のコレクションで有名。旧石器時代から銅器時代までの出土品、カッパドキア文書で名高いアッシリア植民都市からの出土品、その他で満ちているが、圧巻はボアズキョイ、ヤズルカヤから出土したヒッタイトの太陽の円盤、スピリウマス印章、古代ヒッタイト人の石像など。規模はさほど大きくないが展示物はすごく豊富。

★**カッパドキア** アンカラの南東150~350kmに広がる大高原地帯に、ピラミッド型、円錐型、ねじれた粘土の塊のような山、尖塔の上に帽子のような石をのせた岩など、この世の光景とは思えない奇岩・怪石が展開し、見る人のドギモを抜く。しかも1世紀頃の初期キリスト教徒が迫害をのがれて岩窟を掘り抜いて造った寺院、僧院、礼拝堂などは感動的である。カッパドキアは撮影用フィルムがいくらあっても足りないほどの被写体の宝庫。

★**イスタンブール** 古来アジアとヨーロッパの接点になった人口約600万のトルコ最大の都市。1923年までは首都であった。ギリシャ時代の古名をビザンティウムといったが、324年、ローマのコンスタンティヌス大帝がここをローマ帝国の新首都として自分の名を冠したコンスタンティノポリスと命名。以来1453年にオスマン・トルコ族が占領するまで東ローマ帝国(ビザンティン帝国)の首都として栄え、都市名もコンスタンティノブルと呼ばれたが、以後はイスタンブールと改

称されて今日に及んでいる。したがって遺跡としては東ローマ帝国時代のキリスト教関係、オスマン・トルコ帝国時代のイスラム文化を示すものがヨーロッパ側の旧市街地区に多数残っており、観光の一大都市でもある。見所は以下のとおり。

★**聖ソフィア大寺院** アヤ・ソフィアと呼ばれるこの大聖堂は、325年にコンスタンティヌス皇帝が創始したが、現存の建築物は6世紀にコスティニアヌス皇帝が建造したビザンティン建築の傑作。ドームの直径30m、高さ54mという壮大なもので、1453年にオスマン・トルコ軍が占領してから大聖堂はイスラム教のモスクにされた。現在は博物館になっており、修復された初期のモザイクの傑作群が見られる。

★**トプカプ宮殿** 400年間にわたりオスマン・トルコ帝国代々のスルタン(トルコ系イスラム王朝の君主)の居城となった広大な宮殿。マルマラ海とボスポラス海峡を見渡す高台にあり、現在は宮殿博物館として公開されている。オスマン帝国の財宝を集めた絢爛豪華な展示品に驚嘆のほかない。

★**グランドバザール(大市場)** 1461年に建造されたトルコ第1の大バザール。アーケードになっており、約3万㎡の敷地に約3000軒の小さな店がひしめいて、宝石、絨毯、金銀細工、民芸品などを売っている。買いたせば金はいくらあっても足りないほどエキゾチックな品物が溢れている。見るだけでもすごく楽しめる場所。

★**エフェソス** ギリシャ・ヘレニズム時代からローマ時代にかけて栄えた古代都市遺跡としてトルコ最大の見所となっている。特にイエスの死後、この町へ逃避して住みついた12弟子の1人、聖ヨハネは、ここでヨハネ福音書を書いて没した。彼の墓の跡へユスティニアヌス帝とその妻テオドラが建立した**聖ヨハネ聖堂**の遺跡がある。ヨハネはここへ来るときに聖母マリアを連れて逃れたという伝説があったが、近代の発掘でそれが立証された。その**聖母マリアの家**は南の丘にある。その他、世界7不思議の1つのアルテミス神殿跡、ハドリヤヌスの神殿、イスラム建築の傑作イサ・ペイ・ジャミ、大理石通り、初期キリスト教の「7つの教会」の1つであった二重教会、その他の遺跡が多数残っている。エフェソスは希望者のみのオブシユナル(選択)・ツアー。GAP会員必見の場所。〈ギリシャについては省略〉

### 第2次 旅行説明会

この旅行の第2回目の説明会を下記の要領で開催します。参加申込者と考慮の中はぜひご出席下さい。この日に申し込んでも間に合います。

- とき 7月20日(日) 午後1:00~5:00
- ところ トラベラー商会 2F 説明会場

東京都中央区銀座2丁目2-19 ☎03-563-5461~2  
国電有楽町駅下車、銀座側に出て、交通会館を前にして左側面の道路をまっすぐ行き、フードセンターを通り抜けた外堀通りの向かい側。デパート「プラント」の並び約100m左。有楽町駅より徒歩3分。(銀座の中央通りではありません)。トラベラー商会入口のエレベーターで2Fへ。

- 会費 無料
- 携行品 パスポート(ない方も可)、筆記具

※説明会終了後、別な場所で夕食会を開催します。

詳細については下記へ案内書をハガキでお申込下さい。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F  
**ワールドセブントラベル社 田中正(宛)**  
☎(03)499-2461 夜間(0474)77-4728(田中宅)

## 日本GAP企画第8回海外研修旅行



# ギリシャ・トルコ・ローマ宇宙考古学の旅

■旅行期間 昭和61年8月6日より17日まで12日間

■参加費用 **¥558,000** (24カ月分割払い可)

日本GAPは昭和54年8月に企画第1回目として「アメリカ中米宇宙考古学の旅」を実施して以来毎年世界の謎の遺跡や建造物、名所旧蹟などを見学して多大の成果をあげてまいりました。昭和61年度は第8回目としてアメリカ・メキシコの旅を企画発表しましたが、参加希望者が少ないために1月末急ぎ先行先を変更し、標記のようにギリシャ、トルコ、イタリア・ローマを巡遊する豪華な旅にしました。

この3カ国はいずれも古代の遺跡の宝庫で、必見の素晴らしい場所が沢山あります。まずギリシャはヨーロッパ文明の源泉になったヘレニズム文化発祥の国として名高く、紀元前16世紀からのミノア時代、ミケーネ時代、アルカイック時代、クラシック期、ヘレニズム期にかけて、哲学、文芸、絵画、彫刻、工芸などが完成の域に達し、これが後のローマ帝国に影響を与えて西欧世界へ流れました。今回はアテネの雄大なパルテノン神殿を筆頭に各地の遺跡を見学しますが、特に希望者はエフェソス、ミケーネ、コリントの各遺跡見学の他に、1日エーゲ海の船旅に出て美しい島々を巡遊するという素晴らしいコースが特徴となっています。

一方、トルコは古代のヒッタイト帝国以来、東ローマ帝国(ビザンチン帝国)時代の輝かしい遺跡がイスタンブール(コンスタンティノープル)に多数残り、その後セルジューク帝国、オスマン帝国領になってからのイスラム文化の遺跡も残っています。帰途はイタリアの首都ローマに立ち寄って、Uコン92号に掲載されたサン・ピエトロ大寺院その他の壮大な遺跡を1日たっぷり見学します。順序としては、まずトルコ国内を見学し、次にギリシャ、最後にローマというコースになります。

以上の3国とも大変親日的で治安は良好ですから安心して旅行ができます。またこれらの国は民芸品の生産国として名高いので珍しいお土産の入手に事欠きません。日本GAP独特の家族的雰囲気にも満ちた手作りの素晴らしい旅に多数ご参加下さい。旅行中はワールドセブントラベル社の幹部で日本GAP東京本部役員の田中正が添乗して業務一切を担当し、会長の久保田八郎も同行して2人で心暖まるお世話をいたします。現地では優秀な日本人ガイドが説明します。GAP会員でなくても参加できますから知人をお誘いの上ご参加下さい。

日本GAP会長(旅行団長) 久保田八郎

	年月日	曜日	場所	時間	交通機関	摘	要
1	1986年 8月6日	水	成田発	17:45	航空機 アタリア	一路ローマへ。	(機内泊)
2	8月7日	木	ローマ着 " 発 イスタンブール着	07:55 09:55 13:15	航空機	イスタンブール着後、ホテルへ。	(イスタンブール泊)
3	8月8日	金	イスタンブール発 アンカラ着 " 発 カッパドキア着	午前 午前 " 午後	航空機 専用バス	アンカラ着後専用バスにて鋭く尖った三角形の岩峰が無数に点在する奇妙な景観のカッパドキア地方へ。異様な火山地形と洞穴修道院、巨大な地下都市などを見学。	(カッパドキア泊)
4	8月9日	土	カッパドキア発 アンカラ着 " 発 イスタンブール着	午前 午前 夕方 夜	専用バス 航空機	アンカラ着後緑深い丘にあるアタテュルク廟、石彫をはじめ数々の展示品を誇るヒッタイト博物館などを見学後イスタンブールへ。	(イスタンブール泊)
5	8月10日	日	イスタンブール滞在			終日自由行動。希望者はヘレニズム～ローマ時代にかけて栄えたエフェソスの遺跡を見学。	(イスタンブール泊)
6	8月11日	月	イスタンブール滞在			午前：オスマン帝国の財宝を一堂に集めてあるトプカプ宮殿などの見学。 午後：自由行動(ブランドバザールでショッピングなど)	(イスタンブール泊)
7	8月12日	火	イスタンブール発 アテネ着	09:45 10:55	航空機	アテネ着後アクロポリスの丘にそびえる白亜のパルテノン神殿、古代オリンピック競技場その他を見学。	(アテネ泊)
8	8月13日	水	アテネ滞在			終日自由行動。希望者は別途費用でコリントとミケーネの遺跡を見学。	(アテネ泊)
9	8月14日	木	アテネ滞在			終日自由行動。希望者は別途費用で終日エーゲ海の船旅に出る。紺青の海と空、まばゆいばかりに輝く白い家々、古代ギリシャそのままの風土を残すイドラ島、ポロス島、エギナ島など美しい島々を巡遊。	(アテネ泊)
10	8月15日	金	アテネ発 ローマ着	08:00 09:00	航空機	ローマ着後、サン・ピエトロ大寺院、スペイン広場、パンテオン、トレビの泉、コロッセオ、フォロ・ロマーノその他を見学。	(ローマ泊)
11	8月16日	土	ローマ発	12:00	航空機	一路帰国の途に。	(機内泊)
12	8月17日	日	成田着	14:50			

企画：日本GAP／主催：株式会社日本旅行(運輸大臣登録一般旅行業第2号)／販売 旅行代理店ワールドセブントラベル株式会社(運輸大臣登録旅行業代理店業1957号)

# Greece, Turkey & Rome



# 日本GAP全国月例研究会案内



支部名	日 時	会 場	会 費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00 ※7月のみは第3土曜日、8月のみは第1土曜日に変更。9月は総会のため中止。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先=日本GAP ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー 受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:30 会員による体験講演。 2:30→4:00 久保田会長の「生命の科学」講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:00→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※9月のみは東京総会出席のため第4土曜日の28日に変更。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※61年8月17日より「けさじろ荘」に変更。	長岡市今朝白1丁目「けさじろ荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先=星富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F 国際会議控室 連絡先=喜多正宣 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※8月のみ第3日曜日の17日に変更。10月のみ第1日曜日の5日に変更。	名古屋市中村区那古野1-47-1「名古屋国際センタービル」5F第2会議室。☎052-581-5678。 国鉄・名鉄・地下鉄の名古屋駅より徒歩7分。 連絡先=林 国直 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先=笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市小川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎0238-37-5635	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-822-8260	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※9月より会場を静岡労政会館に変更。	静岡市駿府町「静岡県婦人会館」会議室。☎0542-54-5221。*9月より「静岡労政会館」に変更。☎0542-21-6280。駅より徒歩5分。 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。☎0166-26-1304。 連絡先=阿部 堯 ☎01658-2-1585	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレパシー練習。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	奇数月：広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 偶数月：松山市民会館会議室。 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先=久保寺信一 店：☎0276-25-5958 自宅：☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市堤町1丁目4-1「青森市文化会館」会議室。☎0177-73-7300。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
沖縄支部	毎月第3日曜日 午後1:00→6:00	那覇市寄宮1-2-1「那覇市民会館」1F A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先=新里義雄 ☎0988-54-1623	¥500	テキストとして「生命の科学」と「宇宙哲学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想念観察とテレパシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」第1研修室。☎044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先=大崎孝典 ☎0492-65-0389	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※9月は東京総会出席のため中止。10月は移動月例会、詳細は清水まで。	水戸市梅香1-2「水戸市中央公民館」4F小集會室。☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:30→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻市総合文化センター」第1会議室。☎0263-54-1253。塩尻駅下車、徒歩10分。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
紀南会	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。☎0735-21-2760。国鉄新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「生命の科学」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。

★本誌/バックナンバー(旧号)★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

**No.90** 主要記事「朝霧高原の不思議な“月”」伊藤達夫/「旭川にも月擬装UFO出現」石川晴道/「尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船」ムーンゲート第14章(完)ウィリアム・L・ブライアン/「アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法」久保田八郎

**No.91** 主要記事「円盤に乗った日本人少年」伊藤達夫/「ブラジル人教授の円盤搭乗事件」/「質疑応答」G・アダムスキー/「太陽系の惑星に知的生物が存在!?!」/「地球の哲学と宇宙哲学の相違(2)」松原真弓

**No.92** 主要記事「偉大な惑星から来た兄弟たち」野口敏治/「サン・ピエトロ大寺院の異星人」久保田八郎/「米トップ科学者、UFO墜落の事実を認める」ゴードン・クレイトン/「質疑応答」G・アダムスキー/「地球の哲学と宇宙哲学の相違(完)」松原真弓

**No.93** 主要記事「月面にいた2機のUFO」/「超低空に出現した大型円盤と黒い人影」並原弘可/「私も光体を見た」伊藤達夫/「多くの館」G・アダムスキー/「質疑応答」G・アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた」春川正一

各¥700 バックナンバーに限り送料は不要

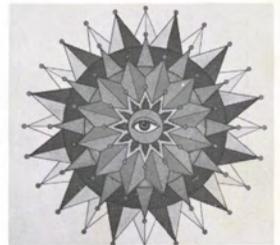
「生命の科学」解説講義録音テープ

昭和61年1月より1年間、東京月例研究会で日本GAP会長・久保田八郎先生が、スペース・プラザの指導のもとにアダムスキーの名著「生命の科学」を新しい視野と清新な感覚をもって行う解説講義の録音テープです。テレバシー開発や宇宙の人間を目指すGAP会員必聴の重要資料となるものです。

テープ1本(90分) ¥1000 千200

\*このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい。(1月分より在庫)

〒430 静岡県浜松市三島町808-2 小島国弘  
TEL.0534-42-3507 振替/名古屋7-51065



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

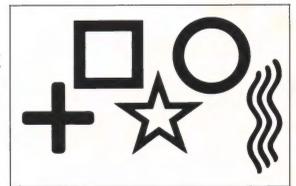
①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ハッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービスクラ判・カラー写真)上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥600 千120 ②¥300 千60 一括注文の場合千120

③セナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレバシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美観箱入り。  
¥600 千120



①+②+③の場合千170

編集後記

●本号は海外研修旅行の關係で少し早く発行しました。前号記載の「私は別な惑星へ行ってきた」は大センセーションをまき起こしましたが、本号も十一頁にわたって連載第二回目を掲載しました。この記事はアダムスキーの信憑性を裏づけるものとしてきわめて重要な内容を含んでいます。今後も連載を続けますからご期待下さい。会費切れの方は早目にご納入のほどを。

●その記事の主役・春川正一氏が、来る九月二十一日の銀座ガスホールにおける今年度総会で特別講演を行います。直接話を聞ける絶好の機会ですから多数ご出席下さい。詳細予告は本号31頁に掲載してあります。

●「地球を救う愛の想念放射運動」は共に東京月例会で行われた講演の記録で、人間の想念波の重要性を示唆する内容です。

洋食のマナーと西洋式入浴法

国際的に通用する紳士淑女になるために

日本GAP会長 久保田八郎解説  
B5版 4頁 写真図版11点入り 美観オフ印刷  
●一般に素外知られていない洋食の食べ方、近來国内のホテルで普及している西洋風馬の入浴法などを詳述されたいわゆる海外旅行はもちろ国内旅行でも恥をかかないで済み、堂々と振舞える  
★従来日本GAP海外研修旅行用テキストとして参加者に配布していたが、このたび改訂新版を印刷、GAP会員に広く頒布。このテキストで立派な紳士淑女になれること請合  
★原価1部150円。送料120円。60円切手4枚と10円切手3枚を同封、GAP本部宛注文されたい。  
<日本GAP>

会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙の人間を目指す/入会案内書はガキで日本GAPへ申し込もう!  
—日本GAP—

ですから、UFO写真展は重要な意義を帯びています。盛況を期待します。

●東京月例会は毎月第二土曜日に開催していますが、今年度は次の三カ月に限り開催日を変更しますので、お間違いないようご注意ください。

七月第二土曜日の十九日に変更。  
八月第一土曜日の二日に変更。  
九月東京で総会を開催するため月例会は中止。

会場と開始時刻は従来どおりです。詳細は右頁の「全国月例研究会案内」欄の東京本部の項を参照して下さい。

●本誌の書店売れ残り旧号が多少あります。廃棄処分するものも勿体ないので、これを知人などに無料で配布しようという方に無償で差し上げますから、希望者は送料千円のみを添えて(六十円切手十七枚でも可)お申込下さい。宅配便で送ります(二人三十冊まで)。

●本誌は約百名のボランティア(奉仕者)により東京と全国各地の主要書店に委託販売されているためです。宇宙のカルマをもつ人を発掘するために書店卸しチームにご参加下さい。ハガキでご一報下さいれば説明書を送ります。

●読者のUFO目撃体験、UFO写真、宇宙哲学の実験成果等の原稿を募集しています。ふるってご投稿下さい。原稿を書くのが苦手な方はご一報下さいれば当方が出張して対談形式で取材します。

●会の健全な運営維持のため寄付金は随時有難く受け付けます。遠かな惑星群の大明りに思いを馳せながら万物と万人にプラス想念を送るの頃です。(K)

日本GAP機関誌・季刊 秋季号  
UFO contactee 94th  
編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本GAP  
〒113 東京都江戸川区本一色1-12-11 P  
電話 03-6511-0995 8  
振替 東京41359112  
昭和六十一年七月二十日発行  
定価七〇〇円・送料200円  
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

OLYMPUS

生活防水までついでに「どんどん」光る全自動  
新発売



ぬれても「カヤ」

「カヤ」AF-1



1.5秒ですぐ光る。  
世界初の完全自動発光ストロボ内蔵。  
オリンパスビコンAF-1 標準価格：本体¥42,800  
オリンパスビコンAF-1 クォーツデイト  
標準価格：本体¥47,800 ケース各¥2,000

このカメラの全自動カメラ

海産物と水産物の「カヤ」AF-1は、全自動カメラで、しかも生活防水機能を備えている。また、1.5秒という短い充電時間で、いつでもすぐに撮影できる。これは、従来のカメラとは異なる。しかも、このカメラには、世界初の完全自動発光ストロボ内蔵が搭載されている。これにより、撮影の瞬間に自動的にストロボが発光し、撮影が完了するまで充電しなくてもよい。これは、従来のカメラとは異なる。しかも、このカメラには、世界初の完全自動発光ストロボ内蔵が搭載されている。これにより、撮影の瞬間に自動的にストロボが発光し、撮影が完了するまで充電しなくてもよい。これは、従来のカメラとは異なる。

- 1.5秒ストロボ・チャージは、常温時の計測です。
  - 生活防水は、JIS保護等級4防まつ形です。
  - カタログ請求は、機種名を明記の上、
- 〒163-91 東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエービル  
オリンパス光学工業株式会社 宣伝部 UFO係まで。

UFO contactee 94号 昭和61年7月20日発行 発行所 日本GAPP 千133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 振替東京4-35912

定価七〇〇円・送料二〇〇円